

北海道農事試験場業務概要
昭和八年

14.21
801

14. 21-801
1200501163645



始



14.2
801

昭和八年業務概要

北海道農事試験場

本篇には北海道農事試験場本、支場、廳立農事試作場、原種圃及採種圃、採種圃監督、原蠶種製造、模範果樹園、農林省委託水稻新品種育成試験並に農林省委託小麥育種地方試験に於ける昭和八年一月



り同年十二月に至る業務の概要を登載す
昭和十一年二月

北海道農事試験場

14.25-801

昭和八年北海道農事試験場業務概要

目次

北海道農事試験場(本場)

| | |
|--------------------|----|
| 第一 試験及調査 | 一 |
| 一 種藝に関する試験及調査 | 一 |
| 二 園藝に関する試験及調査 | 二 |
| 三 土性及施肥標準に関する試験及調査 | 四 |
| 四 土壤肥料に関する試験及調査 | 六 |
| 五 火山灰地に関する試験及調査 | 二 |
| 六 泥炭地に関する試験及調査 | 三 |
| 七 農産製造に関する試験及調査 | 五 |
| 八 糖業に関する試験及調査 | 一七 |
| 九 栽桑及育蠶に関する試験及調査 | 八 |
| 一〇 病理に関する試験及調査 | 九 |
| 一一 昆蟲に関する試験及調査 | 三〇 |
| 一二 農業経営試験及模範経営 | 三三 |
| 一三 委託試験 | 三五 |

107



第二 品種改良

- 一 品種改良に関する試験.....
- 二 種 苗 配 付.....

第三 普及事業

- 一 印刷物の刊行及配付.....
- 二 農事教習生の養成.....
- 三 講習講話、その他.....
- 四 参 観 人.....
- 五 参 観 デ ー.....
- 六 質 疑 應 答.....

第四 其他の事業

- 一 依 頼 分 析.....
- 二 見 本 園.....

上川支場

第一 試験及調査

- 一 種藝に関する試験及調査.....
- 二 土壤肥料に関する試験及調査.....
- 三 病害蟲に関する試験及調査.....
- 四 農業経営試験.....

五 委 託 試 験

第二 品種改良

- 一 品種改良に関する試験.....
- 二 種 苗 配 付.....

第三 普及事業

- 一 農業練習生の養成.....
- 二 講習講話、その他.....
- 三 参 観 人.....
- 四 質 疑 應 答.....

十勝支場

第一 試験及調査

- 一 種藝に関する試験及調査.....
- 二 土壤肥料に関する試験及調査.....
- 三 病害蟲に関する試験及調査.....
- 四 高丘地に関する試験及調査.....
- 五 糖業に関する試験及調査.....
- 六 農業経営試験.....
- 七 委 託 試 験.....

第二 品種改良

一 品種改良に關する試験.....三

二 種 苗 配 付.....三

第三 普及事業.....

一 農業練習生の養成.....三

二 講習講話、其他.....三

三 參 觀 人.....三

四 質 疑 應 答.....三

北見支場

第一 試験及調査.....五

一 種藝に關する試験及調査.....五

二 土壤肥料に關する試験及調査.....五

三 病害蟲に關する試験及調査.....五

四 糖業に關する試験及調査.....六

五 農業經營試験.....六

六 委 託 試 験.....六

第二 品種改良.....

一 品種改良に關する試験.....六

二 種 苗 配 付.....六

第三 普及事業.....

.....六

一 農業練習生の養成.....六

二 講習講話、其他.....六

三 參 觀 人.....六

四 質 疑 應 答.....六

渡島支場

第一 試験及調査.....六

一 種藝及園藝に關する試験及調査.....六

二 土壤肥料に關する試験及調査.....六

三 病害蟲に關する試験及調査.....六

四 委 託 試 験.....六

第二 品種改良.....

一 品種改良に關する試験.....六

二 種 苗 配 付.....六

第三 普及事業.....

一 農業練習生の養成.....六

二 講習講話、其他.....六

三 參 觀 人.....六

四 質 疑 應 答.....六

根室支場

第一 試驗及調査

- 一 種藝に關する試驗及調査
- 二 土壤肥料に關する試驗及調査
- 三 病害蟲に關する試驗及調査
- 四 農業經營試驗

第二 品種改良

- 一 品種改良に關する試驗
- 二 種苗配付

第三 普及事業

- 一 農業練習生の養成
- 二 講習講話、その他
- 三 參觀人
- 四 質疑應答

檜山農事試作場

第一 模範經營

第二 試驗及調査

第三 指導

俱知安農事試作場

第一 模範經營

第二 模範養蠶經營

第三 試驗及調査

第四 指導

釧路農事試作場

第一 模範經營

第二 試驗及調査

第三 指導

美深農事試作場

第一 模範經營

第二 試驗及調査

第三 指導

天鹽農事試作場

第一 模範經營

第二 試驗及調査

第三指 導 六二

瀨棚農事試作場

第一模範經營 六五

第二模範經營 六五

第三試驗及調查 六六

第四指 導 六六

日高農事試作場

第一模範經營 六九

第二試驗及調查 六九

第三指 導 七〇

稚內農事試作場

第一模範經營 七三

第二試驗及調查 七三

第三指 導 七四

美瑛農事試作場

第一模範經營 七七

第二試驗及調查 八〇

第三指 導 八二

原種圃及採種圃

一米原種圃 八二

二小麥原種圃 八二

三麥原種圃 八一

四雜穀馬鈴薯原種圃 八一

五菜種採種圃 八一

六綠肥採種圃 八四

採種圃監督

..... 八五

原蠶種製造

..... 八六

模範果樹園(渡島支場)

..... 八七

農林省委託水稻新品種育成試驗(上川支場)

..... 八八

農林省委託小麥育種地方試驗(本場及北見支場)

..... 八九

昭和八年業務概要

北海道農事試験場 (本場)

第一 試験及調査

本年施行せる試験及調査の主要左の如し

| 試験及調査の種類 | 圃場 | 植木鉢 | 室内 |
|----------------|----|-----|----|
| 種莖に関する試験及調査 | 七 | 一 | |
| 園藝に関する試験及調査 | 三 | | |
| 土壤肥料に関する試験及調査 | 五 | | |
| 火山灰地に関する試験及調査 | 二 | | |
| 泥炭地に関する試験及調査 | 四 | | |
| 農産製造に関する試験及調査 | 三 | | |
| 糖業に関する試験及調査 | 五 | | |
| 栽桑及育蠶に関する試験及調査 | 二 | | |
| 試験及調査の種類 | 九 | | |
| 圃場 | 三三 | | |
| 植木鉢 | 一 | | |
| 室内 | 六 | | |

| | | | | | | | |
|-------------|----|----|---|----|---|----|---|
| 病理に關する試験及調査 | 六 | 三 | 九 | 七 | 二 | 六 | 二 |
| 昆蟲に關する試験及調査 | 四 | 三 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 農業經營試験及模範經營 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 委託試験 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 計 | 二七 | 一七 | 六 | 二九 | 五 | 一六 | 六 |

一 種藝に關する試験及調査

本試験は普通作物並に特用作物の各種に就き地方に對する作物の適否、耕種肥培、管理、收穫、農具の選定等普通農事に關する試験及調査をなすを目的とす。而して本年の氣候は前年冬季に入りてより一月上旬に至る間は概して高温を持續したるも爾後氣温急激に降下し、引續き低温を示し特に三月中旬に於ける氣温著しく低かりしを以て平年に比し積雪大差なかりしも融雪遅く四月中旬融雪期に達したり。而して融雪後は氣温概して低かりしも晴天多照にして五月に入りて高温となり、同中旬に至りては著しく高温を示し且降水寡少なりしを以て天候概して乾燥に失し、六月下旬に入るに及び相當の降雨ありて適順の經過を辿りたりしも、七月に入るや氣温急激に上昇し近年稀なる高温を持續し、降水寡少なりしを以て再び乾燥の天候を示すに至れり。其の後七月下旬以降は概して高温なりしも時に豪雨あり、八月中旬以降に於ては曇雨天多く所謂蒸暑の天候なりき。其の後九月に入りて平順の天候を示したりしが同下旬に至り氣温急激に降下し降水も亦多く、爾後十月中旬に於て一時高温を示したるのみなりき。初霜は十月三日、初雪は十一月二日にして之を平年に比すれば前者は六日早く後者は大差なきを示せり

本年施行せる試験及調査の種類左の如し

- 一 豊凶考照試験
- 二 耕勤深淺對肥料用量試験
- 三 水稻の生育と土性との關係試験
- 四 播種量試験(裸燕麥)
- 五 冬枯防除試験(秋播大麥)
- 六 刈草地跡地の地力増進試験及調査
- 七 綠肥作物に關する試験
 - イ 赤クローバーの秋播小麥に對する播種法試験
 - ロ 品種試験(青刈大豆)
 - ハ 綠肥作物に對する炭酸石灰施用試験(コンモンベッチ、赤クローバー)
 - ニ 綠肥に對する過燐酸石灰適量試験(燕麥、菜豆)
- 八 移植時期試験(除蟲菊)
- 九 移植距離試験(除蟲菊)
- 一〇 三要素試験(除蟲菊)
- 一一 三要素用量試験(除蟲菊)
- 一二 收穫時期並に乾燥法調査(豌豆)
- 一三 ベッチ類及豌豆連作對生育並に病害發生狀況調査
- 一四 菜種に於ける綠肥作物間作適否調査
- 一五 耕種法調査(白クローバー)
- 一六 採種調査(コンモンベッチ)
- 一七 品種調査(粟)

- 一八 適否調査(莞草、蓖麻、罌粟)
 - 一九 繁殖法調査(苧麻)
 - 二〇 農具調査
 - 二一 氣象觀測
- 右の内、本年完了せる試験及調査は次の種類にして、夫々農事指導資料として發表せんす。
- 一 品種試験(青刈大豆)
 - 二 收穫時期並に乾燥法調査(豌豆)

二 園藝に關する試験及調査

本試験は蔬菜及果樹の本道に最も適當なる品種の選定、耕種肥培法、その他指導獎勵上特に必要なる試験及調査を行ふを目的とす。而して本年は氣候概して順調なりしを以て、蔬菜、果樹共に良好なる生育を遂げたり。而して試験中成蹟の顯著なるは、蔬菜にありては原産地産種子良否に關する試験、促成軟白法試験及馬鈴薯の品種改良試験、又、果樹にありては葡萄の環狀剥皮試験等なり。尙、調査に於ては前年より繼續施行せるもの外、本年新に栗及胡桃に關する調査並に火山灰地の利用に關する調査を加へ施行せるに、特に良成蹟を挙げたるものは菜菔の抽臺開花調査、萎縮病未發生地産馬鈴薯種薯調査、貯藏庫調査、果樹園用噴霧器調査、栗の調査等なり。而して蔬菜貯藏法試験及果樹生育狀況調査は試料の關係上施行を中止するの已むなきに至れり。

本年施行せる試験及調査の種類左の如し

甲 蔬菜に關する試験及調査

- 一 原産地産種子良否試験(越瓜)
- 二 促成軟白法試験(野蜀葵、廿日大根、高菘)
- 三 抽臺開花調査(菜菔)
- 四 蔬菜種子貯藏調査(サルシファイ、パリスニツプ、牛蒡、葱頭、廿日大根)
- 五 蔬菜間作綠肥調査(葱、高菘、結球白菜、蕃茄、胡瓜、茄、南瓜、甘藍)
- 六 新蔬菜普及調査(セルリー、コールラビー、リーキ)
- 七 蔬菜採種調査(茄)
- 八 火山灰地の利用調査(フクシヤ)
- 九 萎縮病未發生地産馬鈴薯調査
- 一〇 生育調査(馬鈴薯)
- 一一 品種改良基本調査(馬鈴薯)

乙 果樹に關する試験及調査

- 一 果樹園經營試験(苹果、梨、櫻桃、梅、葡萄)
- 二 環狀剥皮試験(葡萄)
- 三 貯藏法試験(葡萄)
- 四 「フキロキセラ」免疫性砧木調査(葡萄)
- 五 貯藏庫調査

- 六 永久的果樹棚及垣根調査
 - 七 果樹園管理調査
 - 八 果樹栽培状況調査
 - 九 果樹生育状況調査
 - 一〇 果樹園用噴霧器調査
 - 一一 栗及胡桃の調査
 - 一二 梅苗枯死の原因並其の豫防調査
- 右の内、本年完了せる調査は次の種類にして、夫々農事指導資料として發表せんす。
- 一 萎縮病未發生地産馬鈴薯種薯調査
 - 二 貯蔵庫調査（一部完了）
 - 三 果樹園用噴霧器調査（一部完了）

三 土性及施肥標準に關する試験及調査

前年に繼續し、土地改良並に地力涵養の地方的基本資料を得んが爲、土性調査及施肥標準に關する試験及調査を行ひたり。本年施行せる事業の概要左の如し

甲 土性調査

前年に繼續し、調査員二班を派し、一班は瀬棚、久遠、太櫓の各郡、他の一班は山越、壽都の兩郡に互りて調査を行

ひ、前者にありては其の踏査面積三万町歩、設定せる土壤區三三區、後者にありては其の踏査面積約五万町歩、設定せる土壤區五七區なりとす。而して是等の土壤區に對しては夫々必要とする土地改良並に施肥標準調査に關する試験を行ふべきものなるも、本場經費の關係上悉く之を行ふこと能はざるを以て、特に急施を要する土壤區のみにつき試験を行ふこととし、前者にありては土壤區二區に對して夫々土地改良並に現地三要素に關する試験、六區に對しては夫々ポット並に現地三要素試験、又、後者にありては土壤區八區に對して夫々ポット並に現地三要素試験を行ふべく其の候補地を選定したり。

乙 施肥標準に關する試験及調査

一 ポット三要素試験

前年に繼續し、石狩、膽振、渡島、釧路、根室の五箇國二七箇町村四四箇所の土壤に就き施行したり。各地の試験土壤採集箇所及供試作物左の如し

| 試験土壤採集箇所 | 供試作物 | 試験土壤採集箇所 | 供試作物 |
|-----------------|----------|-------------------|------|
| 石狩國 札幌郡琴似村(本場土) | 水稻、裸麥、燕麥 | 同 | 燕 |
| 同 空知郡岩見澤町字東川向 | 水 稻 | 同 | 同 |
| 同 同 美唄町字中村 | 同 | 同 | 同 |
| 同 同 同 字元村 | 同 | 膽振國 虻田郡俱知安町南一線東五號 | 水 稻 |
| 同 同 富良野町 | 同 | 同 留壽都村字八ノ原買氣別 | 同 |
| 同 同 栗澤村東十五線東五號 | 同 | 同 狩太村赤松農場 | 同 |
| | | | 麥 |

| | | | | | | |
|-----|--------------|---|---|-----|------------|--------|
| 膽振國 | 虻田郡狩太村有島農場 | 燕 | 麥 | 天鹽國 | 上川郡士別町 | 水稻、馬鈴薯 |
| 同 | 同 曾我農場 | 同 | 同 | 同 | 中川郡美深町 | 同 |
| 同 | 同 東俱知安村字下目名 | 同 | 同 | 釧路國 | 厚岸郡濱中村字姉別 | 同 |
| 同 | 同 喜茂別村字上尻別 | 同 | 同 | 同 | 川上郡標茶村字虹別 | 同 |
| 同 | 同 狩太村近藤農場 | 同 | 同 | 同 | 同 字阿歴内 | 同 |
| 同 | 同 眞狩別村字ルスツ | 同 | 同 | 同 | 同 弟子屈村字摩周湖 | 同 |
| 同 | 同 俱知安町北二線西六號 | 同 | 同 | 同 | 同 字仁太 | 同 |
| 同 | 同 狩太村相馬團體 | 同 | 同 | 同 | 同 足寄郡足寄村 | 同 |
| 同 | 同 東俱知安村字京極 | 同 | 同 | 同 | 同 字螺灣 | 同 |
| 渡島國 | 檜山郡上ノ國村字下中須田 | 水 | 稻 | 同 | 同 澁別村 | 同 |
| 同 | 同 字苦符 | 同 | 同 | 根室國 | 野付郡別海村字中西別 | 同 |
| 同 | 同 泊村字越前 | 同 | 同 | 同 | 同 字中春別 | 同 |
| 同 | 同 厚澤部村字當路下權場 | 同 | 同 | 同 | 同 上風連原野 | 同 |
| 同 | 同 字西鶴 | 同 | 同 | 同 | 同 字上春別 | 同 |
| 同 | 同 茅部郡落部村字學林 | 燕 | 麥 | 同 | 同 字西春別 | 同 |
| 同 | 同 森町字尾白内土橋 | 同 | 同 | 同 | 標津郡標津村字養老牛 | 同 |

右の内、左の七箇所につきては、本年を以て試験を結了し、指導獎勵の資に供せんす。

| | | | | | |
|-------------|-----------------|----------|-------------|-----------|---|
| 試驗 土壤 採集 箇所 | 石狩國 札幌郡琴似村(本場土) | 水稻、裸麥、燕麥 | 試驗 土壤 採集 箇所 | 同 同 字阿歴内 | 燕 |
| | 釧路國 川上郡標茶村字虹別 | 麥 | | 厚岸郡濱中村字姉別 | 同 |

| | | | | | |
|-----|------------|---|---|------------|---|
| 同 | 川上郡弟子屈村字仁太 | 燕 | 同 | 標津郡標津村字養老牛 | 燕 |
| 根室國 | 野付郡別海村字中西別 | 同 | 同 | | 麥 |

二 現地三要素試験

前年に繼續し、石狩、膽振、渡島、北見、天鹽の五箇國一六箇町村二〇箇所に於て施行したり。試験施行箇所及供試作物左の如し

| | | | | | | |
|----------|-------------------|---|---|----------|----------------|--------|
| 試驗 施行 箇所 | 石狩國 空知郡岩見澤町字東川向 | 水 | 稻 | 試驗 施行 箇所 | 千歳郡千歳村字ママチ | 蕎麥、小豆 |
| | 同 栗澤村南十五線東五號 | 同 | 同 | 同 | 虻田郡喜茂別村字上尻別 | 菜豆 |
| | 同 美唄町字中村 | 同 | 同 | 同 | 同 眞狩別村字留壽都 | 馬鈴薯 |
| | 同 同 字元村 | 同 | 麥 | 渡島國 | 檜山郡上ノ國村字苦符 | 水 |
| | 同 北村字幌達布 | 燕 | 同 | 同 | 同 字下中須田 | 同 |
| | 同 幌向村字夕張太 | 同 | 同 | 同 | 同 泊村字上小黑部 | 同 |
| | 同 同 栗澤村字由瓦 | 同 | 同 | 北見國 | 網走郡女滿別村十四線十二番地 | 同 |
| | 同 同 字茂世丑 | 同 | 同 | 同 | 同 紋別郡紋別村字小向 | 同 |
| | 同 石狩郡新篠津村字北二線四十五線 | 同 | 同 | 同 | 同 雄武村オタクムシベ | 同 |
| 膽振國 | 虻田郡俱知安町南一線西三號 | 水 | 稻 | 天鹽國 | 天鹽郡天鹽町字中央ウブシ | 燕麥、馬鈴薯 |

右の内、左の一箇所に就ては、本年を以て試験を結了し、指導獎勵の資に供せんす。

| 試驗施行箇所 | 地質系統 | 土性 | 供試作物 |
|-------------------------------|-------|-------|-------|
| 膽振國 虻田郡豊浦村字新山梨 同 有珠郡徳舞村字中徳 | 同 火山灰 | 壤 壤 土 | 同 燕 麥 |

四 土壤肥料に關する試験及調査

本試験は農耕地生産力の維持増進を圖らんが爲、土壤の管理、肥料の種類等に關する試験及調査を行ふを目的とするものにして、本年に於ける試験成績の主なるものは三要素試験、水田有機質減耗試験、新肥料肥効比較試験、窒素及磷酸質肥料の肥効並に供給要素の吸収率、窒素用量試験、堆肥の腐熟程度と其の肥効試験等なり。

本年施行せる試験及調査の種類左の如し

- 一 三要素試験(水稻)
- 二 土壤所含三要素有効量試験(水稻、小麥、燕麥、大豆、小豆、菜豆、馬鈴薯、亞麻、蕎麥、蕃茄)
- 三 堆肥及綠肥所含三要素の肥効試験(燕麥)
- 四 水田有機質減耗試験
- 五 地力減耗試験(大麥、小麥、燕麥、玉蜀黍、大豆、小豆、黍、馬鈴薯、菜種、亞麻、蕎麥)
- 六 新肥料肥効比較試験(水稻)
- 七 磷酸質肥料肥効比較試験(水稻、燕麥)
- 八 窒素用量試験(水稻)
- 九 窒素質肥料肥効比較試験(燕麥)

- 一〇 堆肥の腐熟程度と其の肥効試験(水稻、青刈用玉蜀黍)
- 一一 磷酸質肥料肥効比較試験(燕麥)
- 一二 堆肥施用法試験(燕麥)
- 一三 石灰施用量試験(赤クローバー)
- 一四 堆肥と硫酸アンモニア配合關係と地力増進試験(菜豆)
- 一五 各種土壤對肥料成分漏洩量査定試験(燕麥)
- 一六 連作調査(小麥、裸麥、燕麥、大豆、小豆、菜豆、豌豆、馬鈴薯、蕎麥、除蟲菊、甜菜)
- 一七 十勝岳流泥調査

五 火山灰地に關する試験及調査

本道に於ける火山灰地は甚だ廣汎に亘り、十勝、釧路、根室、膽振、渡島、日高、北見、石狩國等に分布し、特に本道南半に多し。其の土壤は他の普通礦質土壤に比し特異の性状を有するを以て、斯種土壤に對し土地改良、作物の選擇、耕種肥培、地力維持増進、農業經營法等に關し特殊の試験調査を行ふ要あり。即ち此の目的の下に明治三十六年以來膽振國勇拂郡安平村の早來火山灰地試験地に於て試験を施行し來れるが、本年は氣候適順なりしを以て品種に關する試験に於ては各種作物品種の優劣を確認し、栽培法試験に於ては麥類の播種期と收量、品質との關係を確め、適否試験に於ては落花生、間作綠肥作物等好適するを認め、土壤肥料に關する試験に於ては燕麥、馬鈴薯に對する硫酸アンモニア配合關係並に水稻、燕麥、馬鈴薯に對する堆肥と硫酸アンモニアの關係に就き見るべき成績を擧げ、煙草に關する試験に於ては栽培法及乾燥法に就き良好効果を認め、農業經營試験に於ては火山灰地畑地に於て穀菽一〇町歩及五町歩並に主畜五町歩經營により農家の生計確實なるを認めたり。

本年施行せる試験及調査の種類左の如し

- 一 豊凶考照試験
- 二 品種試験(水稻、小麥、燕麥、大豆、小豆、馬鈴薯、甜菜)
- 三 適否試験(落花生、間作綠肥、煙草)
- 四 播種期節試験(秋播小麥、燕麥)
- 五 飼料作物種類試験(菊芋、青刈用玉蜀黍、向日葵、燕麥、コンモンベツチ、豌豆、馬鈴薯、家畜用ビート、瑞典蕪菁)
- 六 綠肥作物種類試験(赤クロバ、白メリロット、コンモンベツチ、サンドベツチ、綠肥大豆)
- 七 火山灰地農業經營試験
- 八 堆肥ニ硫酸アンモニアとの關係試験(水稻、馬鈴薯)
- 九 硫酸アンモニア配合試験(馬鈴薯)
- 一〇 地力測定試験(水稻、燕麥、大豆、馬鈴薯)
- 一一 火山灰地對各地土壤生産力比較試験(水稻、燕麥、大豆、馬鈴薯)
- 一二 火山灰地各層土壤生産力比較試験(燕麥、大豆、馬鈴薯)
- 一三 堆肥施用法試験(菜豆)
- 一四 堆肥の腐熟程度と其の肥効試験(水稻、青刈用玉蜀黍)
- 一五 窒素磷酸配合比率試験(甜菜)
- 一六 新肥料肥効比較試験(燕麥)
- 一七 堆肥施用量試験(菜豆)
- 一八 澀汁施用試験(燕麥、赤クロバ、青刈用玉蜀黍、菜豆)
- 一九 株間距離試験(煙草)
- 二〇 三要素試験(煙草)

- 二一 肥料用量試験(煙草)
 - 二二 追肥時期試験(煙草)
 - 二三 窒素質肥料肥効比較試験(煙草)
 - 二四 地方重要農作物病害蟲調査
 - 二五 附近農家重要作物栽培法並に收量調査
 - 二六 野草育成調査
 - 二七 火山灰地土壤水分調査
 - 二八 水田綠肥調査
 - 二九 霜害程度調査
 - 三〇 氣象觀測
- 右の内、本年完了せる試験は次の種類にして、夫々農事指導資料として發表せんとす。
- 一 間作綠肥作物適否試験
 - 二 堆肥ニ硫酸アンモニアとの關係試験(水稻、馬鈴薯)
 - 三 硫酸アンモニア配合試験(馬鈴薯)

六 泥炭地に關する試験及調査

高低泥炭地は天然の儘にては其の性狀不良にして、農耕地的價値に乏しく、之を改良し農耕地として利用せんには特殊の方法を講ずるを要し、又耕種肥培上種々の注意を拂ふを要するを以て、大正八年以來石狩國空知郡美唄町上美唄原野に特設せる美唄泥炭地試験地に於て之が土地改良法並に耕種肥培法に關し諸般の試験調査を施行し來り、其の成績に據り斯

種土地開發施設の上に寄與し、農業經營上の指導獎勵に資し得たる處尠からざりき。
本年施行せる試験及調査の種類左の如し

- 一 豊凶考照試験
- 二 品種選抜試験(裸燕麥、大豆、小豆、菜豆、豌豆)
- 三 三要素試験(燕麥、馬鈴薯)
- 四 三要素適量査定試験(裸燕麥、大豆)
- 五 堆肥施用法試験(燕麥、馬鈴薯)
- 六 新肥料肥効比較試験(燕麥)
- 七 各種肥料肥効比較試験(小豆)
- 八 レナニアホス及セメントダスト 肥効查察試験(燕麥)
- 九 ライムケーク肥効查察試験(燕麥)
- 一〇 堆肥對硫酸アンモニア關係試験(燕麥)
- 一一 堆肥對硫酸アンモニア及智利硝石配合試験(燕麥)
- 一二 家畜放牧の効果調査
- 一三 野草調査
- 一四 暗渠排水調査(燕麥、小豆)
- 一五 開墾法調査
- 一六 牧草栽培法調査
- 一七 鎮壓の効果調査
- 一八 新墾地に於ける適作物調査
- 一九 泥炭堆肥調査

二〇 氣象觀測

右の内、本年完了せる試験は次の種類にして、夫々農事指導資料として發表せんす。

- 一 品種選抜試験(小豆、菜豆)
- 二 各種肥料肥効比較試験(小豆)
- 三 レナニアホス及セメントダスト 肥効査定試験(燕麥)

七 農産製造に關する試験及調査

本試験は本道重要農作物の加工利用に關する試験及調査を行ふを目的とし、本年に於ける試験及調査は從來繼續中のもの内、一部改廢せるものありしも、大體に於て前年に繼續施行せり。

- 一 トマトペースト製造原料試験
- イ 品種試験
- ロ 窒素質肥料種類試験
- ハ 窒素適量査定試験
- 二 トマトペースト製造試験
- イ 蒸發法試験
- ロ 濃縮對果汁肉酸度試験
- ハ 色素試験
- 三 トマトサイダー製造試験

- 四 玉蜀黍利用試験
 - イ 脫皮法試験
 - ロ コーンシラップ製造試験
 - 五 本道主要作物の化學的成分調査(大豆、馬鈴薯)
 - 六 特用作物竝に蔬菜類の加工利用法調査(除蟲菊、葉煙草、アスパラガス)
 - 七 果實及蔬菜類罐詰及罐詰法調査(苹果、南瓜)
- 右の内、本年完了せる試験は次の種類にして、夫々農事指導資料として發表せんす。
- 一 味噌製造試験(ライ麥)
 - 二 醬油製造試験(ライ麥)

八 糖業に關する試験及調査

本道に於ける甜菜糖業の發達に資せんが爲、優良品種の選擇、耕種肥培及病害蟲防除法竝に製糖副産物利用等に關し諸般の試験及調査をなすを目的とす。

本年施行せる試験及調査の種類左の如し

- 一 各種窒素質肥料肥効査定試験
- 二 コンモンベツチ及赤クローバー跡地の窒素適量試験
- 三 硫酸アンモニア施用法試験
- 四 加里用量試験
- 五 連作試験

- 六 堆肥の腐熟程度と硫酸アンモニア肥効試験
 - 七 コンモンベツチ肥効試験
 - 八 硼酸効果試験
 - 九 採種用甜菜に於ける甜菜蛇眼病防除試験
 - 一〇 夜盜蟲の被害と甜菜切葉との關係試験
 - 一一 粉劑の夜盜蟲殺蟲効果比較試験
 - 一二 綠肥鋤込と石灰施用との關係調査
 - 一三 甜菜耐病性調査
 - 一四 甜菜藥劑撒布調査
 - 一五 甜菜褐斑病に對する耐病性因子調査
- 右の内、本年完了せる試験は次の種類にして、夫々農事指導資料として發表せんす。
- 一 採種用甜菜に於ける甜菜蛇眼病防除試験
 - 二 夜盜蟲の被害と甜菜切葉との關係試験

九 栽桑及育蠶に關する試験及調査

本道に於て養蠶經營上必要なる桑樹の合理的栽培及蠶品種竝に其の經濟的飼育法等に關する試験及調査を行ふものにして、其の成績中主なるものは種繭の保護温度は華氏七五度を以てするときは不受精卵少なく産卵量最も多きを明にせると、「國蠶支十六號×國蠶歐十六號」及「國蠶支十六號×國蠶歐十八號」は從來の獎勵品種に比し一般に繭質優れるを認めたること等なりとす。

本年施行せる試験及調査の種類左の如し

- 一 桑對酸性土壤矯正試験
- 二 夏秋蠶種蠶用桑育成試験
- 三 桑適否試験
- 四 模範桑園經營
- 五 春蠶飼育法試験
- 六 桑の品種と蠶兒發育との關係試験
- 七 夏秋蠶種蠶用桑の品種と蠶兒發育との關係試験
- 八 夏秋蠶飼育法試験
- 九 模範養蠶經營
- 一〇 桑品種試験
- 一一 桑交配試験
- 一二 蠶品種試験
- 一三 蠶一代交雜種比較試験
- 一四 蠶蛆調査
- 一五 種繭並に蛾の保護中に於ける温度の高低と産卵量並に不受精卵との關係調査

一〇 病理に關する試験及調査

本道重要農作物に對する病害に就き試験及調査をなすを目的とし、從來施行せるものは孰れも本道農作物病害中極めて

重要なるもののみにして、緊急解決を要すべきもの尠からざるに鑑み、本年は努めて是等試験の完成に主力を傾注せり。其の結果幸に本道農業上の最大患者たる稻熱病に關しては特に見るべき成績を挙げ得たり。即ち前年度に於て試験及調査を完了せる種粃消毒法は既に時報を以て公表し、本年より直に之を指導獎勵すると共に成績の普及を目的として、空知郡幌向村及同郡栗澤村に於て稻熱病防除委託試験を施行せるに、孰れも成績顯著にして豫期以上の良成績を收めたり。又稻熱病發生と土壤との關係に就きては從來ポット試験によれるも、之を廢して實地調査を施行せるに、本病發生に對し極めて顯著なる關係を有する事實を發見するに至り、土地改良上客土及排水改善に就き特に有力なる資料を得たり。黒蝕米に關しては豫てより防除法其他を明にせんとし鋭意試験を重ねつつあるものにして、前二箇年は氣候低冷なりしたため其の發生少なりしも、本年は氣候順調にして夏季高温なりしたため各地に發生多かりしが、本試験に於ては乳熟期にボルドウ合劑撒布が黒蝕米防除上効果最も顯著なるを知り、本成績と紅變米に關する調査成績とは本道産米の品質向上に極めて有力なる資料を得たり。又稻苗腐敗病に關して前年より施行せる硫酸銅液流込法は本年に於ても更に顯著なる効果を認めたり。又線蟲病に關しては其の分布を明にし防除督勵上大に資するものあるを認め、藥劑防除試験に於ても亦見るべき成績を得たり。尙、菜豆細菌病豫防上種子消毒の効果著しきを知れる他、各試験調査共に信憑すべき成績を得たり。

- 一 稻熱病に關する特別試験
- 二 稻熱病の發生と稻葉處分との關係試験
- 三 黒蝕米に關する試験
- 四 稻苗腐敗病豫防試験
- 五 小豆立枯病と種子との關係試験
- 六 採種用甜菜に於ける甜菜蛇眼病豫防試験
- 七 セルリ腐敗病豫防試験
- 八 藥劑による根瘤線蟲病防除試験

九 稻熱病に關する調査

- イ 稻熱病菌の越年に關する調査
- ロ 稻熱病發生と土壤との關係調査
- ハ 稻熱病、稻胡麻葉枯病、稻馬鹿苗病第一次發生豫防種粉消毒の調査
- ニ 稻熱病發生と耕起の程度及施肥量との關係調査
- 一〇 稻苗腐敗病の調査
- 一一 黑蝕米の調査
- 一二 水稻黃化萎縮病の調査
- 一三 裸麥茶紋病の調査
- 一四 馬鈴薯萎縮病の調査
- 一五 小豆立枯病の調査
- 一六 菜豆細菌病の調査
- 一七 甜菜病害調査
- 一八 各種作物の線蟲病に對する罹病竝に抵抗性調査
- 一九 各種作物後作の線蟲病被害程度調査
- 二〇 病原線蟲の分布調査
 - イ 根瘤線蟲の分布調査
 - ロ 土壤中に於ける線蟲の分布調査
 - ハ 大豆萎黃病線蟲の土壤中に於ける分布調査
- 二一 大豆萎黃病と肥料配合との關係調査
- 二二 本道重要農作物病害調査

二三 農作物連作地病害調査

右の内、本年完了せる調査は次の種類にして、夫々農事指導資料として發表せん。

- 一 病原線蟲の分布調査
- 二 稻熱病發生と土壤との關係調査
- 三 本年本道に於て發生せる特に注意すべき病害に關する調査（本道重要農作物病害調査の内）

一一 昆蟲に關する試験及調査

本道重要農作物に對する主なる害蟲竝に其の益蟲に就きて試験及調査をなすを目的とし、從來施行せる試験及調査事項の外に更に新なる調査項目をも加へたるが、其の成績の主なるものとしては、稻泥負蟲に對する藥劑効果の比較をなし、實用上除蟲菊石鹼液の有効なることを明にし、且其の濃度を決定し、豌豆豆象に對する加熱防除試験により攝氏六五度乃至七〇度の濕熱五時間處理、同六五度乃至七五度の溫湯三分間浸漬竝に同五五度乃至七〇度の乾熱二時間乃至三〇分處理を以て有効となすも、前二者は處理後の乾燥に注意を怠るときは貯藏中品質の低下竝に發芽力の失墜を來すべきにより實用上寧ろ乾熱處理の適當なることを確認し、夜盜蟲の被害と甜菜切葉との關係試験により、第一回、第二回發生すも被害程度の多きに隨ひ甜菜の收量及糖分に影響を及ぼすこと大なるも、第一回發生の場合と第二回の夫れとを比較するに前者に於て其の影響著しきものにして、共に之が防除の忽諸にすべからざることを明にし、更に兎尿の殺蟲效果に就き調査を行ひて坊間に傳ふるが如き殺蟲效果を有せざることを明にせる等なり。

本年施行せる試験及調査の種類左の如し

- 一 稻泥負蟲に對する藥劑效果比較試験
- 二 針金蟲防除試験

- 三 針金蟲誘引試験
- 四 豌豆豆象に對する加熱防除試験
- 五 種蠅ニ播種法との關係試験
- 六 夜盜蟲の被害と甜菜切葉との關係試験
- 七 粉劑の夜盜蟲殺蟲効果比較試験
- 八 重要害益蟲飼育調査
- 九 二化性螟蟲の調査
- 一〇 稻泥負蟲の調査
- 一一 稻泥負蟲卵寄生蜂の調査
- 一二 シロミミアカヨタウの調査
- 一三 キタバコガの調査
- 一四 甜菜夜盜蟲の調査
- 一五 夜盜蟲卵寄生蜂の調査
- 一六 大豆莢蠹蟲の調査
- 一七 豌豆豆象の調査
- 一八 コガネムシの調査
- 一九 針金蟲の調査
- 二〇 大根蛆の調査
- 二一 種蠅の調査
- 二二 イチゴハナゾウの防除調査
- 二三 カタバシクビナガハムシの防除調査

- 二四 兔尿の殺蟲効果調査
 - 二五 殺蟲竝に驅蟲劑調査
 - 二六 本年本道に於て發生せる特に注意すべき害蟲の調査
- 右の内、本年完了せる試験及調査は次の種類にして、夫々農事指導資料として發表せんとす。
- 一 稻泥負蟲に對する藥劑効果比較試験
 - 二 豌豆豆象に對する加熱防除試験
 - 三 夜盜蟲の被害と甜菜切葉との關係試験
 - 四 本年本道に於て發生せる特に注意すべき害蟲の調査

一一一 農業經營試験及模範經營

一 農業經營試験

本試験の目的は從來の各種試験及調査の成績を綜合して、各主要農業地帯に對し合理的農業經營法を立案し、實地農家をして之が經營を行はしめ、其の收支經濟竝に日常生活の實情を明にすると共に、漸次改善を加へて地方的模範農場たらしめ、以て農業經營改善の資に供せんとするにありて、本年は従前に引續き一四箇所の經營試験を施行せしに、本年の氣候極めて良好に經過し、合理的方案の實施と相俟つて各地共に優良なる成績を示し、地方農業經營の模範となり、當業者を裨益せし處尠からざりき。尙、本年新に渡島國山越郡長萬部村に畑二〇町歩を經營面積とする主畜農業經營試験を開設せり。而して本年は住宅、納舍、畜舍の建築竝に經營試験擔當者の選定を行ひたり。

既設經營試験農場左の如し

| 名 | 稱 | 所在地 | 擔當者 | 監督場名 | 經營種類 | 經營面積 | 開始年次 |
|----|-------------|-------------|--------|--------|------|-------|-------|
| 北海 | 道農事試験農場 | 十勝國河西郡大正村字幸 | 森 志希留 | 十勝高丘地 | 混同農業 | 一七・〇〇 | 昭和三年 |
| 十勝 | 支場高丘地經營試驗農場 | 根室國標津郡標津村字中 | 今井三右衛門 | 根室支場 | 同 | 一五・〇〇 | 同 |
| 根室 | 支場經營試驗農場 | 北見國斜里郡斜里村字上 | 關口 峰二 | 北見支場 | 同 | 一五・〇〇 | 昭和四年 |
| 北見 | 支場上斜里經營試驗農場 | 後志國斜里郡利別村字神 | 渡部 重貞 | 北見支場 | 同 | 一〇・〇〇 | 昭和五年 |
| 同 | 同 | 後志國虻田郡喜茂別村中 | 吉田 實 | 北見支場 | 同 | 一〇・〇〇 | 昭和六年 |
| 喜茂 | 別傾斜地經營試驗農場 | 北見國宗谷郡稚内町字沼 | 中川 種吉 | 稚内支場 | 同 | 二〇・〇〇 | 昭和七年 |
| 沼川 | 經營試驗農場 | 膽振國勇拂郡安平村字早 | 寺島 弘 | 早來火山灰地 | 主畜經營 | 一〇・〇〇 | 大正十三年 |
| 同 | 同 | 石狩國札幌郡琴似村字發 | 坪山與三次郎 | 本支場 | 混同經營 | 七・〇〇 | 大正十五年 |
| 同 | 同 | 泥炭地經營試驗農場 | 瀨谷竹千代 | 早來火山灰地 | 主畜經營 | 五・〇〇 | 昭和三年 |
| 同 | 同 | 火山灰地經營試驗農場 | 西川 政二 | 同 | 主畜經營 | 五・〇〇 | 同 |
| 同 | 同 | 同 | 江頭 作藏 | 北見支場 | 混同經營 | 六・二一 | 昭和四年 |
| 同 | 同 | 同 | 齊藤留五郎 | 上川支場 | 水田經營 | 四・四六 | 昭和五年 |
| 同 | 同 | 同 | 安達 勇 | 俱知安農事 | 混同經營 | 二七・〇〇 | 昭和七年 |
| 同 | 同 | 同 | 阿部 要三 | 天鹽農事 | 同 | 二八・七七 | 昭和五年 |
| 同 | 同 | 同 | | 天鹽農事 | 同 | | |

二 模範經營

本經營の目的は農事試作場内に於て從來當該試作場並に本、支場の試験及調査成績を綜合し、且、所在地方の實情に鑑み其の地方に最も適應せる農業經營法を立案し、實地農家若は試作場直營にて經營を行ひ、其の收支經濟並に日常生活の状態を明にし、以て地方農業經營法の指針たらしめんとするにあり。而して本年に於ては從前に引き続き五箇所の模範經營を施行せるに、本年は春季以來氣候順調に經過し、加ふるに合理的方案の實施と相俟つて作況良好にして、農業經營上並に耕種肥培の技術上地方當業者を裨益せし處尠からざりき。

既設模範經營農場左の如し

| 名 | 稱 | 所在地 | 擔當者 | 監督場名 | 經營種類 | 經營面積 | 開始年次 |
|----|-----------|-----------|---------|---------|--------|------|-------|
| 釧路 | 農事試作場模範經營 | 釧路國厚岸郡太田村 | 銅路農事試作場 | 同 | 主畜經營 | 八・〇〇 | 大正十一年 |
| 天鹽 | 農事試作場模範經營 | 天鹽國天鹽郡天鹽町 | 狩山 義一 | 天鹽農事試作場 | 混同經營 | 五・〇〇 | 昭和二年 |
| 日高 | 農事試作場模範經營 | 日高國靜内郡靜内町 | 前川 繁一 | 日高農事試作場 | 畑兼田作經營 | 四・〇〇 | 昭和三年 |
| 後志 | 農事試作場模範經營 | 後志國瀬川郡利別村 | 鈴木 二郎 | 日高農事試作場 | 畑兼田作經營 | 三・〇〇 | 昭和三年 |
| 石狩 | 農事試作場模範經營 | 石狩國上川郡美瑛村 | 高橋 龜一郎 | 美瑛農事試作場 | 畑作經營 | 六・九七 | 昭和六年 |
| 美瑛 | 農事試作場模範經營 | 美瑛國上川郡美瑛村 | 美瑛農事試作場 | 美瑛農事試作場 | 畑作經營 | 六・九七 | 同 |

一三 委託試驗

本、支場成績にして直に應用し難き特殊の地方に對し從來の成績を基礎として別箇の試験を立案し、之を各地に委託施行せり。

本年施行せる試験の種類及委託箇所左の如し

| 試験の種類 | 委託箇所 |
|-----------------------|---|
| 水稻品種試験 | 發足村、伊達町、岩見澤町、鶴川村、幌加内村 |
| 線肥試験 | 手稻村、角田村 |
| 傾斜地に於ける耕種法試験 | 豊平町、眞狩別村、美瑛村 |
| 亞麻品種試験 | 伊達町 |
| 除蟲菊試験 | 和寒村 |
| 低位泥炭地に於ける品種並に適否試験 | 天鹽町 |
| 同 肥料並に土地改良試験 | 天鹽町、幌延村、稚内町、利別村 |
| 酸性土壤地に於ける肥料並に矯正試験 | 遠別村、苫前村、美深町、智恵文村、上士別村、狩太村 |
| 甜菜對石灰用量試験 | 標津村、別海村、弟子屈村、濱中村、和田村 |
| 甜菜對石灰用量試験 | 苫前村 |
| 甜菜品種試験 | 帶廣市、幕別村、池田町、本別町、遠別村、浦幌村、大樹村、興部村、上湧別村、置戸村 |
| 桑適否試験 | 女滿別村、小清水村、斜里村、士別町、濱中村、伊達町、由仁村、角田村、江別町、惠庭村、浦臼村、幌加内村、中川村、富良野町、山部村、清水村、音更村、音別村、落部村 |
| 農蠶業經營調査 | 狩太村、小平村 |
| 農蠶業經營調査 | 南尻別村 |
| 農蠶業經營調査 | 俱知安町 |
| 稻熱病防除試験 | 幌向村 |
| 深耕の程度及施肥量と稻熱病發生との關係試験 | 篠路村 |
| 線蟲根瘤病に關する試験 | 夕張町 |
| 黒蝕米に關する試験 | 角田村 |
| 針金蟲防除試験 | 旭川市 |
| イトミミズ防除試験 | 發足村 |

第二品種改良

一 品種改良に關する試験

各種作物に就て本道の風土に恰適し收量多く品質良好なる品種を選出せんが爲、各種品種及新品種育成に關する試験及調査を行へり。
本年施行せる試験の概要左の如し

| 試験の種類 | 種類 | 種類数 | 區 | 數 |
|------------|----|-----|---|-------|
| 品種改良に關する試験 | | 五四 | | 一、八二八 |

イ 普通作物

一 品種試験

- 一 品種選抜試験
 - 水稻、陸稻、大麥、裸麥、燕麥、大豆、小豆、菜豆、豌豆、馬鈴薯
- 二 品種豫備試験
 - 水稻、陸稻、馬鈴薯

二 新品種育成試験

純系淘汰法

六年目調査を行ひたるもの

水稻「中生白毛」五系統

四年目調査を行ひたるもの

大麥「二角シバリ」三五號「四二系統

人工交配法

イ 組合せ數、個體數及系統數

| 作物名 | 栽培調査を行ひたる個體及系統數 | | | |
|--------------------------------|-----------------|----|-----|---------|
| | 第一 | 第二 | 第三 | 第四 |
| 陸大 燕 燕 麥 麥 麥 麥 稻 稻 | 組合せ數 | 二〇 | 一九七 | 九一五、二九〇 |
| | 個體數 | 八 | 三四九 | 三四 |
| | 系統數 | | | 二七八 |
| | 組合せ數 | | | 一七 |
| 陸大 燕 燕 麥 麥 麥 麥 稻 稻 | 組合せ數 | 二〇 | 一九七 | 九一五、二九〇 |
| | 個體數 | 八 | 三四九 | 三四 |
| | 系統數 | | | 二七八 |
| | 組合せ數 | | | 一七 |
| 陸大 燕 燕 麥 麥 麥 麥 稻 稻 | 組合せ數 | 二〇 | 一九七 | 九一五、二九〇 |
| | 個體數 | 八 | 三四九 | 三四 |
| | 系統數 | | | 二七八 |
| | 組合せ數 | | | 一七 |

ロ 系統生産力檢定試験

| 作物名 | 世代 | 栽植系統數 | 摘 | 要 |
|-----|------|-------|---|---|
| 陸大 | 四代以降 | 六六 | | |
| 燕 燕 | 同 | 四六 | | |

| 水 菜 燕 | 稻 豆 麥 | 三 三 四 | 上川支場より依頼のもの |
|-------|-------|-------|-------------|
| | 同 同 | | |
| | 六代以降 | | |

口 特用作物

イ 亞 麻

一 品種試験

二 新品種育成試験

純系淘汰法

四年目調査を行ひたるもの

「ワシントン十四號」二八系統

人工交配法

イ 組合せ數、個體數及系統數

| 組合せ數 | 栽培調査を行ひたる個體及系統數 | |
|------|-----------------|-----|
| | 第二 | 第三 |
| 二 | 一二二 | 三 |
| | | 一四五 |
| | | 八 |
| | | 二二 |

□ 菜 種

一 品種試驗

一 品種特性調査
二 品種豫備試驗

二 新品種育成試驗

一 純系淘汰法

三年目調査を行ひたるもの

「ハムブルグ」一〇五系統

ハ 甜 菜

一 品種試驗

一 品種選抜試驗
二 品種豫備試驗

二 新品種育成試驗

一 系統選抜法

イ 系統比較試驗(母根選抜)

ロ 母根の選抜竝に採種

二 人工交配法

イ 交配操作

ロ 雜種第一代養成(母根)

ハ 雜種第一代個體採種

ニ 雜種第二代個體選抜試驗(母根)

ホ 雜種第三代系統選抜試驗(母根)

ヘ 雜種第二代個體採種

ト 雜種第三代個體採種

チ 雜種第四代系統選抜試驗(母根)

リ 雜種第四代個體採種

ヌ 系統生産力檢定試驗

ハ 桑

本道春蠶用に適する優良品種を育成せんが爲、前年道産種ミ府縣種との交配により得たる「四〇〇一號」外一一品種を播種して苗木となしたる外、前年養成せる「三〇〇一號」外二一品種は本年代出苗として更に之を養成せり。尙、本年交配を行ひ明年播種せんとするもの「四一〇一號」外一八品種を採種せり。

二 種 苗 配 付

本年配付したる種苗の種類及數量左の如し

二 農事教習生の養成

本年養成中の農事教習生は、農事實習生二〇名（二年目一名、二年目九名）、農業練習生四〇名、蠶業講習生七名なり。

三 講習講話、その他

- 一 講習講話、實地指導、その他
講習講話、實地指導、其の他の爲、場員を出張せしめたるは技師七六回三七六日、技手一一九回五五九日、囑託四一回二四一日、助手四一回四一〇日なり。
- 右の外、事務打合の爲、屬を出張せしめたるは一六回八六日なり。
- 二 農事指導員及町村農會技術員研究会
本場を會場として開催せる農事指導員及町村農會技術員研究会、その他講習會左の如し

| | | | |
|---------------------|-----------|----------|-----|
| 一 後志十三郡農會主催技術員農事研究会 | 自七月 七 日 | 至同 七 日 | 三日間 |
| 一 空知外三郡農會主催技術員農事研究会 | 自十月 十四 日 | 至同 十四 日 | 三日間 |
| 一 日高七郡農會技術員研究会 | 自七月 二十四 日 | 至同 二十六 日 | 三日間 |
| 一 札幌外四郡農會主催技術員協議會 | 自五月 十三 日 | 至同 十三 日 | 二日間 |

| | | | |
|----------------------------|-----------|-----------|-----|
| 一 空知外三郡農會主催農事實行組合幹部講習會 | 同 九 月 七 日 | 同 九 月 七 日 | 二日間 |
| 一 札幌外四郡農會主催農事實行組合壯青年部講習會 | 自九月 四 日 | 至日 四 日 | 三日間 |
| 一 札幌外四郡農會主催農事實行組合指導者講習會 | 自六月 十八 日 | 至同 十八 日 | 七日間 |
| 一 空知外三郡農會主催技術員研究会 | 自十月 十四 日 | 至同 十四 日 | 三日間 |
| 一 空知外三郡農會主催第二次農事實行組合指導者講習會 | 自九月 十五 日 | 至同 二十五 日 | 七日間 |

四 參觀人

參觀人總數 一一、四二七名

五 參觀デー

輓近當業者の農業技術に對する理解は其の度を高め、到底從來の抽象的指導を以て足れりませず、著しく具體的指導を要望しつつあるに鑑み、本年も亦前年に繼續し八月十五、十六、十七日の三日間參觀デーを開催し、廣く參觀者を勧誘せるに、當業者の來場せるもの頗る多く好成績を收め得たり。

六 質疑應答

農業技術の各般に互り書面又は口頭を以て質疑せるものに對し懇切に應答せり。

第四 其の他の事業

一 依頼分析

一般公衆よりの依頼分析の件數及成分數を示せば左の如し

| 種類 | 件數 | 成分數 | 種類 | 件數 | 成分數 |
|----|-----|-------|-------|-----|-------|
| 土 | 一二八 | 四五七 | 農業藥品 | 一 | 一 |
| 肥 | 四〇三 | 一、二五四 | 農産加工品 | 一 | 七 |
| 農 | 二七 | 五八 | 計 | 五七〇 | 一、八一五 |
| 水 | 一〇 | 三四 | | | |

二 見本園

試験に屬せざる各種農作物品種を栽培し、又、綠肥用並に刈草用豆科作物、牧草、特用作物等の見本園を設置し、本試験施行上の豫備的調査を行ふと共に參觀人に供覽せり。

上川支場

第一 試験及調査

本年施行せる試験及調査の概要左の如し

| 試験及調査の種類 | 田 | | 作 | | 畑 | | 作 | |
|---------------|----|----|----|-----|----|---|----|-----|
| | 種類 | 數 | 種類 | 數 | 種類 | 數 | 種類 | 數 |
| 種藝に關する試験及調査 | | 五 | | 九八 | | 三 | | 二一 |
| 土壤肥料に關する試験及調査 | | 五 | | 六七 | | 一 | | 一一 |
| 病害蟲に關する試験及調査 | | 三 | | 二二 | | 一 | | 一 |
| 農業經營試驗 | | 一 | | 一 | | 一 | | 一 |
| 委託試驗 | | 五 | | 八五 | | 四 | | 一〇八 |
| 計 | | 一九 | | 二七二 | | 九 | | 一四〇 |

一 種藝に關する試験及調査

各種作物對氣象の關係及耕種肥培等普通農事に關する試験及調査を施行せり。而して本年は氣候順調にして生育良好な

りしも、病害蟲の發生多く被害大なるものありき。然れども大體に於て信憑すべき成績を挙げ得たり。

本年施行せる試験及調査の種類左の如し

- 一 豊凶考照試験
- 二 耕鋤深淺試験(水稻)
- 三 挿秧期試験(水稻)
- 四 田作と畑作との輪作試験
- 五 水田綠肥試験
- 六 氣象觀測

二 土壤肥料に關する試験及調査

土壤の生産力維持並に増進を圖らんが爲、肥料の肥効及施用量並に施用期に關する試験及調査を施行せり。本年は例年に比し氣候順調にして、各作物の生育一般に良好なりしを以て、試験施行上支障なく信憑すべき成績を得たり。

本年施行せる試験及調査の種類左の如し

- 一 三要素試験(水稻)
- 二 石灰用量試験(裸麥)
- 三 新肥料肥効比較試験(水稻)
- 四 窒素質肥料配合試験(水稻)
- 五 肥料施用期試験(水稻)
- 六 堆肥施用量試験(水稻)

三 病害蟲に關する試験及調査

本年施行せる試験及調査左の如し

- 一 黒蝕米に關する試験
 - イ 發生期に關する試験
 - ロ 水稻倒伏と發生との關係試験
 - ハ 刈取後の處理法と發生との關係試験
- 二 二化性螟蟲の調査
- 三 地方重要農作物病害蟲調査

四 農業經營試験

當地方水田經營の改善を圖らんし、上川支場に於ける從來の各種試験成績を應用し、上川地方に適應せる水田經營法を立案し、昭和五年農家一戸を入地せしめて試験を施行せるに、本年は氣候順調にして特記すべき故障なく、大體に於て既定の計畫を施行し、其の收支を明にするを得たり。

五 委託試験

當支場の成績を應用し難き特殊の地方に對し試験を農家に委託施行したり。本年は下川村外八箇町村に設置したるに、氣候概ね順調なりしを以て、孰れも大體に於て信憑すべき成績を挙げ得たり。

第二 品種改良

一 品種改良に關する試験

| | | | | |
|------------|----|---|---|-------|
| 試験の種數 | 種類 | 數 | 區 | 數 |
| 品種改良に關する試験 | | 五 | | 二、五三五 |

水稻の新品種を育成せんが爲、人工交配法により幾多の有望系統を選抜せる外、秋播小麥、秋播ライ麥、春播小麥、春播ライ麥、大麥、裸麥、燕麥、裸燕麥、玉蜀黍、大豆、小豆、菜豆、馬鈴薯、甜菜、陸稻、蕎麥、粟、粟粟等の品種特性調査を行へり。

二 種苗配付

本年配付したる種苗の種類及數量左の如し

| 種類名 | 配付數量 | 種類名 | 配付數量 | 種類名 | 配付數量 |
|------|----------------------|-------|----------------------|-----|----------------------|
| 水稻 | 四六〇 <small>町</small> | 裸麥 | 一・七 <small>町</small> | 玉蜀黍 | 二・四 <small>町</small> |
| 大麥 | 一・四 | 燕麥 | 四・四 | 菜豆 | 〇・七 |
| 蕎麥 | 〇・四 | 裸燕麥 | 三・七 | 馬鈴薯 | 六七・八 |
| 大麥 | 二・一 | 春播ライ麥 | 二・四 | | |
| 春播小麥 | 四・九 | 小豆 | 四・五 | | |
| 粟 | 〇・八 | 秋播小麥 | 一・四 | | |

第三 普及事業

一 農業練習生の養成

本年養成中の農業練習生は五名なり。

二 講習講話、その他

講習講話、實地指導、其の他の爲、場員を出張せしめたるは技師二五回八四日、農林技師五回三〇日、技手四六回八五日、助手二回三日なり。
右の外、事務打合せの爲、雇を出張せしめたるは一五回二二日なり。

三 參觀人

參觀人總數

四、九三五名

四 質疑應答

農業技術の各般に互り書面又は口頭を以て質疑せるものに對し懇切に應答せり。

十勝支場

第一 試驗及調査

本年施行せる試驗及調査の大要左の如し

| 試驗及調査の種類 | 田 | | 畑 | |
|---------------|----|----|----|-------|
| | 種類 | 數 | 種類 | 數 |
| 種藝に關する試驗及調査 | 二 | 二 | 六 | 一五〇 |
| 土壤肥料に關する試驗及調査 | 一 | 四八 | 七 | 三三四 |
| 病害蟲に關する試驗及調査 | 一 | 一 | 二 | 一 |
| 高丘地に關する試驗及調査 | 一 | 一 | 一 | 五八三 |
| 糖業に關する試驗及調査 | 一 | 一 | 一 | 三六二 |
| 農業經營試驗 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 委託試驗 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 計 | 五 | 六四 | 四三 | 一、六八三 |

一 種藝に關する試驗及調査

普通作物及特用作物の各種に就き耕種肥培、管理、收穫並に地方に對する作物の適否等普通農事に關する試験及調査を施行せり。本年は五月下旬より六月下旬に互り寡雨多照の天候なりしを以て、各作物共旱害を被り生育不振なりしも、爾後の天候概して適順なりし爲、秋收作物は生育恢復したるも、夏收作物は孰れも恢復するに至らずして成熟期に達し減收したる外、特記すべき故障なく、一般に信憑し得る成績を擧げ得たり。

本年施行せる試験の種類左の如し

- 一 豊凶考照試験
 - 二 播種期節試験(菜豆)
 - 三 除草法試験(水稻)
 - 四 適否試験(陸稻、菊芋)
 - 五 豌豆間作及後作綠肥試験(赤クローバー、コンモンベツチ、サンドベツチ、菜種、燕麥)
 - 六 馬鈴薯間作綠肥試験(コンモンベツチ、サンドベツチ)
 - 七 綠肥作物採種試験(赤クローバー、コンモンベツチ、サンドベツチ)
 - 八 氣象觀測
- 右の内、本年完了せる試験は次の種類にして、夫々農事指導資料として發表せんす。
- 一 馬鈴薯間作綠肥試験(赤クローバー、コンモンベツチ、サンドベツチ、菜種、燕麥)
 - 二 適否試験(菊芋)

二 土壤肥料に關する試験及調査

土地生産力の維持増進を圖らんが爲、土壤の管理、各種肥料の肥効及其の施用法等に關する試験及調査を施行せり。

本年施行せる試験及調査の種類左の如し

- 一 三要素試験(馬鈴薯)
 - 二 窒素質肥料肥効比較試験(菜豆)
 - 三 加里質肥料肥効比較試験(小豆)
 - 四 加里質肥料殘効試験(豌豆)
 - 五 窒素質肥料用量試験(燕麥、大豆、小豆、菜豆、豌豆)
 - 六 新肥料肥効試験(水稻)
 - 七 堆肥と硫酸アンモニアとの關係試験(水稻、馬鈴薯)
 - 八 硫酸アンモニア配合試験(水稻、馬鈴薯)
 - 九 堆肥の腐熟程度と其の肥効試験(甜菜、燕麥、青刈用玉蜀黍)
- 右の内、本年完了せる試験は次の種類にして、夫々農事指導資料として發表せんす。
- 一 窒素質肥料肥効比較試験(菜豆)
 - 二 窒素質肥料用量試験(燕麥、大豆、小豆、菜豆、豌豆)
 - 三 堆肥と硫酸アンモニアとの關係試験(水稻、馬鈴薯)
 - 四 硫酸アンモニア配合試験(水稻、馬鈴薯)

三 病害蟲に關する試験及調査

當地方主要農作物に對する重要病害蟲に就き適當なる防除法を案出せんとするを目的とす。本年施行せる調査の種類左の如し

- 一 二化性螟蟲の調査

- 二 菜豆種蠅の調査
- 三 重要農作物病害蟲調査

四 高丘地に關する試験及調査

十勝國に於ける段階又は丘陵地として特殊の地形を有し、表土は火山灰より成生せる高丘地に對する試験及調査を行ふを目的とし、十勝國河西郡大正村大字幸震村の高丘地試験地に於て専ら斯種土地に關する耕種肥培の試験を施行せり。本年施行せる試験の種類左の如し

- 一 豊凶考照試験
- 二 品種試験（大豆、小豆、菜豆、豌豆、馬鈴薯、稗）
- 三 播種期節試験（大豆、小豆、菜豆、稗）
- 四 適否試験（菊芋、除蟲菊）
- 五 綠肥作物に關する試験（赤クローバー、コンモンベツチ、サンドベツチ、燕麥、秋播小麥、菜種）
- 六 三要素試験（大豆、小豆、菜豆、豌豆）
- 七 堆肥の腐熟程度と其の肥効試験（甜菜、燕麥、青刈用玉蜀黍）
- 八 加里質肥料肥効比較試験（燕麥、大豆、小豆、菜豆、豌豆）
- 九 窒素及磷酸用量試験（燕麥、大豆、小豆、菜豆）
- 一〇 加里用量試験（燕麥、大豆、小豆、菜豆、豌豆）
- 一一 新肥料肥効試験（菜豆）

一二 氣象觀測

右の内、本年完了せる試験は次の種類にして、農事指導資料として發表せんす。

- 一 適否試験（菊芋）

五 糖業に關する試験及調査

本試験は當地方主要農作物の一たる甜菜に關する各種の試験及調査を施行するを目的とす。本年施行せる試験及調査の種類左の如し

イ 支 場

- 一 品種試験
- 二 春秋耕比較試験
- 三 綠肥跡地の三要素試験
- 四 甜菜莖葉肥効比較試験
- 五 綠肥肥効試験
- 六 石灰用量試験
- 七 石灰窒素施用法試験
- 八 肥料と甜菜褐斑病との關係調査
- 九 夜盜蛾豫察調査

- 一〇 特殊養分の甜菜の生育に及ぼす影響調査
 - 一一 生育調査
 - 一二 採種用秋播甜菜の播種期節調査
 - 一三 甜菜冷凍乾燥法調査
- 右の内、本年完了せる試験及調査は次の種類にして、夫々農事指導資料として發表せんす。
- 一 甜菜莖葉肥効比較試験
 - 二 石灰用量試験
 - 三 石灰窒素施用法試験
 - 四 肥料ミ甜菜褐斑病との關係調査

□ 高丘地試験地

- 一 品種試験
- 二 耕鋤時期試験
- 三 甜菜莖葉肥効比較試験
- 四 石灰用量試験
- 五 磷酸質肥料配合試験
- 六 綠肥跡地の三要素試験
- 七 硫酸アンモニア施用法試験
- 八 堆肥用量試験

九 多收穫調査

- 一〇 採種用秋播甜菜の播種期節調査
 - 一一 石灰用量と甜菜との關係調査
- 右の内、本年完了せる試験は次の種類にして、夫々農事指導資料として發表せんす。
- 一 甜菜莖葉肥効比較試験
 - 二 磷酸質肥料配合試験

六 農業經營試驗

従来の試験及調査の成績に基き十勝國高丘地に於ける農業經營法を立案し、農家を入地經營せしめ、漸次改善を加へ、模範經營法を案出するを目的とし、昭和三年度より經營面積一五町歩の混同農業經營試驗を開始し、爾來繼續中なり。本年は六月下旬まで高温多照にして雨量寡かりしたため、夏收作物は多少旱害を被りたるも、附近農家に比し生育極めて良好にして各種共に增收を示し、當業者を指導啓發するところ多かりき。

七 委託試験

當支場監督の下に十勝國及釧路國內四箇所に於て委託試験を施行せり。
本年施行せる試験の種類左の如し

- 一 三要素試験(大豆、小豆、菜豆)

第二 品種改良

一 品種改良に關する試験

| 試験の種類 | 田作 | | 畑作 | |
|--------|----|-----|----|-----|
| | 種類 | 数 | 種類 | 数 |
| 品種選抜試験 | 二 | 一四六 | 一 | 三三九 |
| 純系淘汰 | 一 | 一 | 三 | 一五二 |
| 人工交配 | 一 | 一 | 二 | 二六五 |

一 品種試験

各種作物品種を蒐集し其の特性、收量、品質等と比較し以て當地方に適する優良品種を選定せんとするにありて、水稲、大麥、秋播小麥、春播小麥、燕麥、黍、稗、大豆、小豆、菜豆、豌豆、馬鈴薯、桑等に就きて試験を行ひたり。

二 新品種育成試験

當地方の主要農作物たる大豆、小豆に就き新優良品種育成を試み、大豆にありては雜種第六代、四代、三代、二代、一代の調査及人工交配並に純系淘汰を行ひたるが、氣候順調なりしを以て、各其の目的を達するを得たり。

二 種苗配付

本年配付せる種苗の種類及數量左の如し

| 種類名 | 配付數量 | 種類名 | 配付數量 | 種類名 | 配付數量 |
|-----|----------------|------|----------------|----------------|----------------|
| 水稲類 | 〇・四六五 一・八六〇 | 馬鈴薯類 | 三・九二二 八六〇〇〇 | 綠肥作物 玉蜀黍、其他 | 〇・〇四一 〇・〇三七 |

右の外、桑苗一五、七〇〇本を育成せり。

第三 普及事業

一 農業練習生の養成

本年養成中の農業練習生は四名なり。

二 講習講話、其他

講習講話、實地指導、其他の爲、場員を出張せしめたるは技師三四回一一四日、技手九回二三六日、助手一三回一五

普通作物、園藝作物、特用作物の各種につき耕種肥培、管理、收穫等に關する試験及調査を施行せんとするにあり。而して本年は氣候適順なりしを以て良好なる成績を挙げたるもの多し。就中其の成績の確定せる主なるものは、薄荷移植距離試験に於ては移植距離の狭きもの程收量多く、薄荷作條設置試験に於ては五〇糎毎に一〇糎乃至二〇糎の作道を設けたるもの收量多く、薄荷後作試験に於て大豆及豌豆は施肥及無肥區共に成績良好なるを認め、薄荷銹病の防除回数と刈取期との關係試験に於て無防除區は八月三十日、一回及二回防除區は九月五日、三回防除區は九月十日乃至同十五日刈取を適當と認めたり。薄荷乾燥法試験に於ては吹貫小屋内に於て架乾せるもの最も優れり。外國薄荷乾燥期間に關する試験にありては二日間乾燥のものは取卸油量最も多きを知り、孰れも意義ある成績を挙げ得たり。

本年施行せる試験及調査の種類左の如し

- 一 豊凶考照試験
- 二 薄荷に關する試験及調査
 - イ 作條設置試験
 - ロ 移植距離試験
 - ハ 後作試験
 - ニ 銹病防除回数と刈取期との關係試験
 - ホ 乾燥法試験
 - ヘ 生育調査
 - ト 外國薄荷乾燥期間による取卸油量成分及芳香の差異調査
 - チ 耐病性品種調査
 - 三 動植物季節調査
 - 四 青豌豆に支柱を用ふることの其の收量及品質に及ぼす影響並に經濟調査
 - 五 氣象觀測

右の内、本年完了せる試験は次の種類にして、夫々農事指導資料として發表せん。

- 一 薄荷作條設置試験
- 二 薄荷銹病防除回数と刈取期との關係試験

二 土壤肥料に關する試験及調査

土壤生産力の維持増進を圖らんが爲、土壤の管理、肥料の種類、肥効及其の施用法等に關する試験及調査をなすを目的とす。而して本年施行の試験中新田に於ける窒素質肥料肥効比較試験、小麥に對する三要素用量試験、燕麥並に菜豆に對する三要素試験等を見るべき成績を挙げ得たり。

本年施行せる試験及調査の種類左の如し

- 一 採種試験(赤クローバー、サンドベツチ、コンモンベツチ、綠肥大豆)
- 二 播種量試験(コンモンベツチ)
- 三 間作綠肥作物播種期節試驗(コンモンベツチ)
- 四 石灰用量試験(水稻)
- 五 外國薄荷對石灰用量試験
- 六 新田窒素質肥料肥効比較試験
- 七 三要素試験(燕麥、菜豆、除蟲菊)
- 八 新肥料肥効比較試験(水稻)
- 九 多收穫試験(水稻、薄荷)
- 一〇 堆肥施用法試験(菜豆、薄荷)

- 一一 三要素用量試験（小麥）
 - 一二 薄荷地下莖の發育に肥料三要素との關係試験
 - 一三 綠肥作物播種期節調查（サンドベツチ、コンモンベツチ）
- 右の内、本年完了せる試験は次の種類にして、夫々農事指導資料として發表せんとす。
- 一 新田窒素質肥料肥効比較試験
 - 二 三要素用量試験（小麥）
 - 三 三要素試験（燕麥、菜豆）

三 病害蟲に關する試験及調査

- 當地方主要農作物に對する重要病害蟲に就て試験及調査を施行せんとするにあり。
- 本年施行せる調査の種類左の如し
- 一 二化性螟蟲の調査
 - 二 薄荷病害蟲の調査
 - 三 地方重要農作物病害蟲調査

四 糖業に關する試験及調査

當支場に於ける甜菜に關する試験は大正十一年より漸く試作の域を脱し、試験計畫を確立して諸般の設備を整へ、品種に關する試験、耕種法に關する試験、肥料に關する試験等各種の試験及調査を施行し、既に完結成績は農家に之が普及を

圖り、其の成績の見るべきもの尠からず。

本年施行せる試験及調査の種類左の如し

- 一 品種選抜試験
 - 二 後作試験
 - 三 輪作試験
 - 四 硫酸アンモニア施用法試験
 - 五 深耕と施肥量の關係試験
 - 六 綠肥肥効比較試験
 - 七 生育調査
 - 八 採種用秋播甜菜の播種期節調査
 - 九 夜盜蟲豫察調査
 - 一〇 甜菜病害蟲の種類及防除調査
- 右の内、本年完了せる試験及調査は次の種類にして、夫々農事指導資料として發表せんす。
- 一 深耕と施肥量の關係試験
 - 二 採種用秋播甜菜の播種期節調査

五 農業經營試驗

一 野付牛經營試驗

本試験は試験開始後第五年目にして、年度割方案により施行せるに、本年は氣候概して順調なりしと合理的耕種肥培を

行ひたる結果、作況良好にして、附近農家を裨益する處多かりき。

二 上斜里經營試驗

本試驗は試驗開始後第四年目にして、年度割方案により施行せるに、本年は氣候概して順調にして、之に加へ地力の増進したると耕種肥培を合理的に行ひし等により作況孰れも良好にして、附近農家を裨益せる處多かりき。

六 委託試驗

當場に於て施行し難き特殊の試驗を委託施行せり。本年施行したる試驗成績によれば遠輕村及渚滑村は窒素の肥効、紋別町は加里の肥効孰れも顯著なるを認めたり。

本年施行せる試験の種類左の如し

- 一 磷酸質肥料肥効比較試驗(薄荷)
 - 二 加里用量試驗(薄荷)
 - 三 堆肥用量試驗(薄荷)
 - 四 三要素試驗(薄荷)
 - 五 三要素試驗(小麥)
 - 六 火山灰地に於ける三要素試驗(裸麥)
 - 七 火山灰地に於ける窒素用量試驗(裸麥)
 - 八 火山灰地に於ける磷酸用量試驗(裸麥)
- 右の内、本年完了せる試験は次の種類にして、夫々農事指導資料として發表せんす。
- 一 加里用量試驗(薄荷)

- 二 堆肥用量試驗(薄荷)
- 三 火山灰地に於ける三要素試驗(裸麥)
- 四 火山灰地に於ける窒素用量試驗(裸麥)
- 五 火山灰地に於ける磷酸用量試驗(裸麥)

第二 品種改良

一 品種改良に關する試験

當地方の風土に適し、收量多く、品質佳良なる各種作物の品種を選定せんが爲、試験及調査を行ひたり。

- 一 品種選抜試験(水稻、稗、燕麥、裸燕麥、薄荷、大豆、小豆、馬鈴薯)
- 二 新品種育成試験(水稻、裸麥)

二 種苗配付

本年配付せる種苗の種類及數量左の如し

| 種類名 | 配付數量 | 種類名 | 配付數量 | 種類名 | 配付數量 |
|-----|--------------------|-----|--------------------|--------|--------------------|
| 水稻 | 七・四一八 ^石 | 馬鈴薯 | 一七二 ^貫 | 綠肥コンモン | |
| 荳類 | 一・七二三 | 麥類 | 四・四一二 ^石 | | 〇・四九三 ^石 |

第三 普及事業

一 農業練習生の養成

本年養成中の農業練習生は五名なり。

二 講習講話、その他

講習講話、實地指導、其の他の爲、場員を出張せしめたるは技師三一回九八日、技手三七回一〇〇日、助手一〇回一七日なり。

右の外、事務打合せの爲、屬を出張せしめたるは五回一三日なり。

三 參觀人

參觀人總數 二、四一七名

四 質疑應答

農業技術の各般に互り書面又は口頭を以て質疑せるものに對し懇切に應答せり。

渡島支場

第一 試験及調査

本年施行せる試験及調査の概要左の如し

| 試験の種類 | 畑作 | | 園藝 | |
|----------------|-----|----|-----|----|
| | 種類數 | 區數 | 種類數 | 區數 |
| 種藝及園藝に関する試験及調査 | 二 | 五 | 三 | 二 |
| 土壤肥料に関する試験及調査 | 二 | 三 | 一 | 一 |
| 病害蟲に関する試験及調査 | 三 | 九 | 一 | 一 |
| 委託試験 | 四 | 三 | 七 | 二 |
| 計 | 一一 | 一七 | 一七 | 二七 |

一 種藝及園藝に関する試験及調査

普通作物、園藝作物、特用作物の各種に就き耕種肥培、管理、收穫並に地方に對する作物の適否等に関する試験及調査を実施せり。本年は春季以來氣候概して寡雨多照且高温なりしを以て、作物の生育著しく促進せられ結實良好のもの多か

りしも、夏收作物は減收を來し、秋收作物は増收を示したるもの多かりき。而して本年確定せる成績の主なるものは、莞草適否試験、綠肥作物肥効試験等にして、夫々其の結果を明にし、意義ある成績を挙げ得たり。

本年施行せる試験及調査の種類左の如し

- 一 豊凶参照試験
 - 二 適否試験(莞草、苧麻、桑、罌粟、里芋)
 - 三 綠肥作物に關する試験(赤クローバー、コンモンベッチ、サンドベッチ、綠肥大豆)
 - 四 種子用馬鈴薯栽培試験
 - 五 蔬菜間作綠肥試験(コンモンベッチ)
 - 六 蔬菜不時栽培試験(胡瓜、野蜀葵、韭)
 - 七 露地栽培試験(メロン)
 - 八 着袋の塗布劑種類試験(梨)
 - 九 果樹園間作綠肥試験(コンモンベッチ)
 - 一〇 多收作調査(水稻、馬鈴薯)
 - 一一 蔬菜採種調査(胡瓜)
 - 一二 接木法調査(葡萄)
 - 一三 特性調査(野生葡萄、胡桃)
 - 一四 氣象觀測
- 右の内、本年完了せる試験は次の種類にして、夫々農事指導資料として發表せんとす。
- 一 適否試験(莞草)
 - 二 綠肥作物に關する試験

二 土壤肥料に關する試験及調査

肥料の種類、肥効、施用量及其の施用法等に關する試験及調査をなすものにして、本年確定せる成績の主なるものは三要素試験、窒素及加里用量試験、堆肥用量試験、新肥料肥効比較試験等にして、夫々其の結果を明にし、意義ある成績を挙げ得たり。

本年施行せる試験の種類左の如し

- 一 三要素試験(燕麥、白菜、茄、蕪菁、草莓)
 - 二 窒素質肥料肥効比較試験(水稻)
 - 三 窒素及加里用量試験(馬鈴薯)
 - 四 窒素質肥料配合試験(馬鈴薯)
 - 五 肥料肥効比較試験(蕃茄)
 - 六 新肥料肥効比較試験(水稻)
 - 七 堆肥用量試験(葱)
- 右の内、本年完了せる試験は次の種類にして、夫々農事指導資料として發表せんす。
- 一 三要素試験(燕麥、白菜、茄、草苺)
 - 二 窒素及加里用量試験(馬鈴薯)
 - 三 堆肥用量試験(葱)

三 病害蟲に關する試験及調査

當地方に於ける主要農作物に對する主なる病害蟲に就き試験及調査を施行せんとするにあり。
本年施行せる試験及調査の種類左の如し

- 一 二化性螟蟲の調査
- 二 稻熱病に關する試験及調査
- 三 セルリーの病害調査
- 四 地方重要農作物病害蟲調査

四 委託試験

當支場の試験成績にして直に應用し難き特殊の地方に對し委託施行せんとするにあり。本年委託せるは上磯郡木古内村、知内村、山越郡長萬部村、茅部郡鹿部村火山灰地の四箇所にして、夫々相當の効果を收めたり。

第二 品種改良

一 品種改良に關する試験

本試験は本道南部（渡島）地方の風土に恰適する優良品種を選出せんが爲、各種作物の品種選抜及新品種育成に關する試験及調査を行ひたり。

- 一 品種選抜試験（水稻、小麥、大豆、馬鈴薯、茄、蕃茄、胡瓜、葱、和梨、苹果、櫻桃、葡萄）

- 二 新品種育成試験（水稻、大豆）

二 種苗配付

本年配付せる種苗の種類及數量左の如し

| 種類 | 配付數量 | 種類 | 配付數量 | 種類 | 配付數量 |
|-----|-----------------|-----|-----------------|-----|------|
| 水稻類 | 〇・二一〇石 〇・〇三五 | 菘豆類 | 〇・〇三二石 〇・〇〇六 | 馬鈴薯 | 五町 |
| 麥類 | | 玉蜀黍 | | | |

第三 普及事業

一 農業練習生の養成

本年養成中の農業練習生は五名なり。

二 講習講話、その他

講習講話、實地指導、其の他の爲、場員を出張せしめたるは技師一八回五四日、技手三一回五五日、助手五回一九日なり。

三 參觀人

參觀人總數 三、一七八名

四 質疑應答

農業技術の各般に互り書面又は口頭を以て質疑せるものに對し懇切に應答せり。

根室支場

第一 試驗及調査

本年施行せる試験及調査の概要左の如し

| 試験及調査の種類 | 田作 | | 畑作 | |
|---------------|----|---|----|---|
| | 種類 | 数 | 種類 | 数 |
| 種藝に關する試験及調査 | — | — | — | — |
| 土壤肥料に關する試験及調査 | — | — | — | — |
| 病害蟲に關する試験及調査 | — | — | — | — |
| 農業經營試験 | — | — | — | — |
| 計 | — | — | — | — |

一 種藝に關する試験及調査

根室國及釧路國川上郡、厚岸郡地方に於ける重要農作物の耕種肥培法、管理、收穫及調製法等に關する試験並に調査を昭和四年以降施行申なり。當地方に於ける本年の氣候は平年に比し概して溫暖適順に經過せり。殊に六月中下旬、七月下旬乃至八月上旬及八月下旬は著しく高温多照にして、農作物の生育は一般に進捗し、又恐るべき初霜の被害は殆ど之を見

ずして成熟期に達し、秋收作物に對する試験は特に顯著なる成績を收め得たり。

本年施行せる試験及調査の種類左の如し

- 一 豊凶考照試験
 - 二 播種期節試験（秋播小麥、秋麥ライ麥、秋播菜種、燕麥、黍、豌豆、蠶豆、亞麻、甜菜、瑞典蕪菁）
 - 三 畦幅株間距離試験（瑞典蕪菁、飼料用玉蜀黍、馬鈴薯、甜菜）
 - 四 裸麥對瑞典蕪菁間作試験
 - 五 赤クローバー對馬鈴薯後作試験
 - 六 品種調査（豌豆、玉蜀黍、南瓜、胡瓜、甜瓜、越瓜、蕃茄、茄）
 - 七 收穫乾燥法調査（燕麥、豌豆）
 - 八 採種法調査（コンモンベツチ）
 - 九 多收穫調査（秋播小麥、秋播菜種）
 - 一〇 甜菜冷凍乾燥法調査
 - 一一 馬鈴薯澱粉製造調査
 - 一二 漬物の調査
 - 一三 小型風車の調査
 - 一四 氣象觀測
- 右の内、本年完了せる試験は次の種類にして、農事指導資料として發表せんす。
- 一 裸麥對瑞典蕪菁間作試験

二 土壤肥料に關する試験及調査

當地方火山灰地土壤の地力増進を圖る方法を考究せんが爲、基礎的試験として新墾地の生産力、各養分保有の状態を檢し、更に要素の適用量、施用法、各種肥料の肥効等の試験及調査を昭和四年以來施行中なり。本年は甜菜に對する窒素質肥料肥効比較試験の完結を見、其の他の試験にありても氣候順調なりし爲作況良好にして、夫々信憑するに足る成績を擧げ得たり。

本年施行せる試験及調査の種類左の如し

- 一 既墾地に於ける磷酸用量試験（燕麥、大豆、馬鈴薯）
 - 二 堆肥施用法試験（燕麥、馬鈴薯）
 - 三 菽豆類に對する加里用量試験（菜豆、豌豆）
 - 四 輪作及連作對土壤性狀に關する試験及調査（燕麥、馬鈴薯、菜豆、瑞典蕪菁）
 - 五 新肥料肥効比較試験（燕麥、菜豆、馬鈴薯）
 - 六 窒素質肥料肥効比較試験（甜菜）
 - 七 土壤第一腐植層と第三腐植層との理化學的性質並に肥瘠調査（大麥）
 - 八 根室原野各地に於ける土壤生産力豫察調査
 - 九 新墾地磷酸用量試験跡地の磷酸殘効調査（燕麥、大豆）
 - 一〇 堆肥殘効調査（燕麥）
 - 一一 新墾地肥料三要素試験跡地の殘効調査（燕麥）
- 右の内、本年完了せる試験及調査は次の種類にして、夫々農事指導資料として發表せんす。
- 一 窒素質肥料肥効比較試験（甜菜）
 - 二 新墾地磷酸用量試験跡地の磷酸殘効調査（燕麥、大豆）
 - 三 堆肥殘効調査（燕麥）
 - 四 新墾地肥料三要素試験跡地の殘効調査（燕麥）

三 病害蟲に關する試験及調査

當地方主要農作物に對する重要病害蟲の種類及習性を明にし、之が防除法に關し試験及調査を行ふを目的とす。
本年施行せる調査の種類左の如し

- 一 二化性螟蟲の調査
- 二 地方重要農作物病害蟲調査

四 農業經營試験

本試験は昭和三年以來繼續施行せるものにして、本年は第六年目なり。其の目的は當地方に於ける一般代表地たる高丘地の畑作農業に就て合理的經營法を知らんとするにありて、特定の農家をして未墾地一五町歩を開墾より始め、當地方の適作物を選び、本年は畑地九町歩を耕作し、前年播種の牧草地一町五反を加へ、從來の耕馬の外に搾乳牛一頭及犢二頭、緬羊五頭を飼養し、三圃式農業經營方式に依り漸次畜産收入に重きを措く混同農業に向はしめたり。本年は氣候状態良好なりしを以て、各農作物の生育に特記すべき故障を認めず、附近農家に比すれば概して成績良好なりき。尙、乳牛は豫定數を準備するを得ず、又本年飼育せる犢は壁虱熱病の爲死亡し、乳牛の蕃殖は豫期の如からざりしを遺憾とす。

第二 品種改良

一 品種改良に關する試験

各種作物の當地方に於ける優良品種を選抜せんが爲、各品種の收量、品質及特性等を比較せんとするにありて、品種選抜試験及豫備試験を施行せり。

- 一 品種選抜試験
 - 秋播小麥、春播小麥、燕麥、裸麥、燕麥、黍、粟、飼料用玉蜀黍、稗(飼料用及子實用)、豌豆、青刈大豆、蕎麥、馬鈴薯、甜菜、水稻
- 二 品種豫備試験
 - 秋播菜種、瑞典蕪菁、家畜用ビート、家畜用胡蘿蔔、家畜用蕪菁、ケール、蠶豆、牧草、罌粟

二 種苗配付

本年配付せる種苗の種類及數量左の如し

| 種類 | 配付數量 | 種類 | 配付數量 | 種類 | 配付數量 | 種類 | 配付數量 |
|-----|---------------------|------|--------------------|-----|--------------------|----|---------------------|
| 蕎麥類 | 一〇・八二五 ^石 | 馬鈴薯 | 一・三〇〇 ^貫 | 黍 | 三・〇四〇 ^石 | 菊芋 | 二二・〇〇〇 ^貫 |
| 麥類 | 九・六三五 | 秋播菜種 | 〇・〇〇五 | 菘荳類 | 三・八三五 | | |

第三 普及事業

一 農業練習生の養成

本年養成中の農業練習生は三名なり。

二 講習講話、その他

講習講話、實地指導、其の他の爲、場員を出張せしめたるは技師一八回六七日、技手一七回七五日、助手二回六日、臨時助手一回五日なり。

三 參觀人

參觀人總數

九〇六名

四 質疑應答

農業技術の各般に互り書面又は口頭を以て質疑せるものに對し懇切に應答せり。



檜山農事試作場

本年當場に於て施行せる事業は從來當場竝に北海道農事試験場本、支場に於て得たる試験成績を基礎として、地方主要農作物に對する模範作竝に特殊試験及調査を行ひたる外、一般農事に關する講習講話、實地指導竝に種苗配付等を行ひ、地方農事の改善を圖れり。其の概要左の如し

第一 模範作

當地方に於ける農作物中、農場經營上最も主要なるものを選定し、一農場の縮圖的考案の下に一定の輪作式を案出し、合理的栽培を行ひ、以て一般農家に耕種上の範を示すに共に、其の收支ミ生産量の變遷とを調査し農事上の參考に供せんとするにありて、本年は輪作式第六年目にして、栽培地の地力漸次増進し來り、前五箇年の平均收量に比し增收を示すもの多く、加ふるに農作物市價騰貴の結果、之を地方農家の經營状態に比するに成績良好にして、當業者の參考に資せるまことに尠からざりき。

第二 試験及調査

北海道農事試験場本、支場に於て得たる試験成績にして、之が地方的應用上更に證明試験の必要あるものに對し試験及

俱知安農事試作場

當場に於ては、前年に繼續し、地方農事の改善に資すべき事業、即ち模範作、模範養蠶經營、講習講話、實地指導及種苗配付等に主力を注ぐと共に、田作、畑作、酸性土壤及肥料等に關する地方的特殊試験及調査を行ひたるが、大體に於て豫期の成績を挙げ得たり。其の概要左の如し

第一 模範作

當模範作は當地方農業經營上主要なる作物二二種類を選定し、一農場の縮圖的組織經營法により、北海道農事試驗場本、支場並に當場の試験成績を基礎として、合理的栽培を試みたるに、特に本年は氣候適順なりし爲、各作物孰れも生育極めて良好にして、酸性土壤の改良及合理的耕種肥培の效果顯著なるを示し、地方農家を裨益せしむる妙からざりき。

第二 模範養蠶經營

當模範養蠶經營は當地方農業に於ける副業的養蠶經營の模範を示さんとするにありて、新品種「支歐雜種」(國蠶支一〇六號×國蠶歐十八號)を掃立せるに、收量、繭質共に優り良成績を示せり。

第三 試験及調査

北海道農事試験場本、支場に於て得たる試験成績にして、之が地方的應用上更に證明試験の必要あるものに對し試験及調査を行へり。

本年施行せる試験及調査の大要左の如し

| 試験及調査の種類 | 田 | | 作 | | 畑 | | 作 | |
|-------------------|----|----|----|-----|----|----|----|-----|
| | 種類 | 数 | 種類 | 数 | 種類 | 数 | 種類 | 数 |
| 地方對栽培法に關する試験及調査 | | | | | | | | |
| 地方對土地管理法に關する試験及調査 | | | | | | | | |
| 地方對病害蟲に關する試験及調査 | | | | | | | | |
| 計 | | 一一 | | 一一三 | | 五二 | | 二四四 |
| | | 三八 | | 八三 | | 二七 | | 八九 |
| | | | | | | 二三 | | 一四五 |
| | | | | | | 二 | | 一〇 |

第四 指導

一 講習講話、其他

講習講話、實地指導、其他の爲、場員を出張せしめたるは三五回七五日にして、此の外、所在地の實地指導のため場員の外勤せるもの三〇回三〇日なり。

二 質疑應答

農業技術の各般に互り書面又は口頭を以て質疑せるものに對し懇切に應答せり。

三 參觀人

參觀人總數 一、三九四名

四 種苗配付

本年配付せる種苗の種類及數量左の如し

| 種類 | 配付數量 | 種類 | 配付數量 | 種類 | 配付數量 |
|-------|--------|----|--------|-----|--------|
| 水稻 | 〇・三七五石 | 蕎麥 | 〇・一〇〇石 | 菜豆 | 〇・〇五〇石 |
| 小麦 | 〇・一一三 | 大豆 | 〇・四一〇 | 豌豆 | 〇・一一〇 |
| 燕麥 | 四・一四〇 | 小豆 | 〇・〇一〇 | 馬鈴薯 | 〇・〇〇二 |
| 秋播ライ麥 | 〇・〇二〇 | 豆 | 〇・〇三〇 | 鈴薯 | 一・四〇〇 |

釧路農事試作場

本年當場に於て施行したる事業は當場竝に北海道農事試験場本、支場に於て得たる試験成績を基礎とし、之を當地方の如き特殊の風土地帯に實地應用して、當業者に範を示すべき主畜農業模範經營を實施し、且、講習講話、實地指導等地方農事の指導に主力を注ぐの傍ら地方的特殊試験及調査を行へり。其の概要左の如し

第一 模範經營

本經營は本年第二期六年目に當れり。而して前年に繼續し、其の組織を一五町步經營の縮圖的經營となし、飼養家畜は乳牛四頭、耕馬二頭、鶏一羽、飼料作物反別八町步を以て施行せり。本年は氣候比較的順調に進みたるを以て飼料の生産も大體豫期の成績を收め、又家畜飼養にありても特記すべき故障なく相當の成績を收め、地方農家の模範となり、一般當業者を裨益せしむる點からざりき。

第二 試験及調査

北海道農事試験場本、支場に於て得たる試験成績の地方的應用上更に證明試験を要する特殊作物に就き試験を行ひたるが、當地方は夏季濃霧の襲來多きを以て特に此の點に留意し、主畜農業に密接なる關係を有する事項を選択施行せ

本年施行せる試験及調査の概要左の如し

| 試験及調査の種類 | 知 | | 作 | |
|-------------------|---|---|----|-----|
| | 種 | 類 | 数 | 区 |
| 地方對栽培法に關する試験及調査 | | | 二九 | 一四四 |
| 地方對土地管理法に關する試験及調査 | | | 八 | 四〇 |
| 計 | | | 三七 | 一八四 |

第三指 導

一 講習講話、其他

講習講話、實地指導、其他の爲、場員を出張せしめたるは農林技手一四回六二日なり。

二 質 疑 應 答

農業技術の各般に互り書面又は口頭を以て質疑せるものに對し懇切に應答せり。

三 參 觀 人

參觀人總數 五八名

四 種 苗 配 付

本年配付せる種苗の種類及數量左の如し

| 種 類 | 配 付 數 量 | 種 類 | 配 付 數 量 |
|-------|----------------------|---------------|------------------------|
| 馬 鈴 薯 | 二九二 <small>箱</small> | 瑞 典 燕 菁 (苗) | 七、〇〇〇 <small>本</small> |

五 見 本 作

試作と共に來觀者の參考に供せんが爲、前年に繼續し、見本として蔬菜、花卉等を栽培し、地方農家の觀覽に供した

美深農事試作場

當場に於ては、從來當場並に北海道農事試験場本、支場に於て得たる試験成績を基礎とし、之を實地に應用して當業者に範を示すべき事業、即ち地方主要農作物に對する模範作及特殊試験等に力を注ぎ施行したるが、其の成績の見るべきもの尠からず、殊に模範作は大正十三年に於て其の規模を改め、一農場の縮圖的考案の下に一定輪作式を定め、更に昭和五年より水稻作を加へて主要農作物の合理的栽培を行ひ、一般農家に耕種法の範を示すと共に、其の收支と生産量の變遷とを調査し、農業經營の參考資料たらしめんことを期せり。而して本年は早春以來晩秋迄高温多照なりしたため、秋收作物は孰れも増收せるに、夏收作物は稚苗期並に成熟初期に早害の影響を被り減收を免れざりしも、地方農家の収入状態に比し、模範作の成績は著しく優り、當業者の參考に資せるところ多きを認めたり。其の他一般農事に關する講習講話、實地指導、種苗配付等地方農事改善上裨益せるところ尠からざりき。其の概要左の如し

第一 模範作

當場に於ける水田は排水竝に土性の不良なるにも拘らず、耕種肥培宜しきを得たるため、附近農家に比し増收を示し、畑作にありても附近農家の収入に比し極めて有利なる結果を收め得たり。

第二 試験及調査

北海道農事試験場本、支場に於て得たる試験成績にして、地方的應用上更に證明試験の必要を認めたるものに對し試験及調査を行へり。
本年施行せる試験及調査の概要左の如し

| 試験及調査の種類 | 田 | | 作 | | 畑 | | 作 | |
|-------------------|----|---|----|---|----|---|----|---|
| | 種類 | 数 | 種類 | 数 | 種類 | 数 | 種類 | 数 |
| 地方對栽培法に關する試験及調査 | 三 | 二 | 五 | 一 | 五 | 一 | 四 | 〇 |
| 地方對土地管理法に關する試験及調査 | | | | | | | | |
| 地方對病害蟲に關する試験及調査 | | | | | | | | |
| 計 | | 五 | | 七 | | 二 | | 八 |

第三指 導

一 講習講話、其他

講習講話、實地指導、其の他の爲、場員を出張せしめたるは一五回五四日にして、其の外、試作場所在地に農事指導の爲外勤せるは二一回三九日なり。

二 質疑 應答

農業技術の各般に互り書面又は口頭を以て質疑せるものに對し懇切に應答せり。

三 參觀 人

參觀人總數 一、四六九名

四 種 苗 配 付

本年配付せる種苗の種類及數量左の如し

| 種 類 | 配 付 數 量 | 種 類 | 配 付 數 量 | 種 類 | 配 付 數 量 |
|-----|-------------------|---------|------------------|---------------|----------------------|
| 麥 類 | 六三・五 ^町 | 秋 播 菜 種 | 一・九 ^町 | 馬 鈴 薯 | 二、二四三・五 ^町 |
| 苽 類 | 二六・三 | 種 | 一・一 | コ ン モ ン ベ ッ チ | 五・二 |

右の外、甘藍苗、トマト苗、茄苗、瓜類苗、花卉等を配付せり。

天鹽農事試作場

當場に於ては、從來當場竝に北海道農事試験場本、支場に於て得たる試験成績を基礎とし、之を實地に應用して範こすべき事業、即ち模範經營竝に地方的特殊試験及調査に主力を注ぎ、更に是等試験及調査竝に模範經營の成績の普及を圖らんが爲、講習講話、實地指導を行ふと共に、優良種苗の生産配付、農事に關する質疑應答を行ひ、各種共勵會の審査に従事し、管内町村、町村農會又は當業者の依頼を受けて土壤酸度の檢定を行ふ等地方農事改善上に寄與し、其の成績の見るべきもの尠からざりき。其の概要左の如し

第一 模範經營

前年に繼續し、天鹽地方に於ける畑作經營上の模範を示さんが爲、從來の試験及調査の成績に據り一定方案を樹立し、當場用地内に於て實際農家をして五町歩の畑を耕作せしめ、自家食糧竝に家畜飼料の自給を圖るに共に、販賣作物を栽培生産し、大家畜四頭（乳牛三頭、耕馬一頭）及小家畜若干を飼育する混同農業の組織を以て經營しつつあり。本年は融雪後盛夏に至る迄高温乾燥の天候持續し、晩夏に於て屢豪雨ありしを以て、夏收作物は作況劣りしが、秋收作物は孰れも作況良好にして收量、品質共に優れり。又、前年來飼育し來りし過剩の畜牛を整理し、三頭の乳牛より搾乳したるが、畜産收入多く、地方農家に比し遙に有利なる經營の實績を擧げ得たり。

第二 試験及調査

北海道農事試験場本、支場に於て得たる試験成績にして地方的應用上更に證明試験の必要を認めたるものに對し試験及調査を行へり。

本年施行せる試験及調査の概要左の如し

| 試験及調査の種類 | 田 | | 作 | | 畑 | | 作 | |
|-------------------|----|---|----|----|----|----|----|-----|
| | 種類 | 数 | 種類 | 数 | 種類 | 数 | 種類 | 数 |
| 地方對栽培法に關する試験及調査 | | 二 | | 二八 | | 三三 | | 一三五 |
| 地方對土地管理法に關する試験及調査 | | 二 | | 二四 | | 二四 | | 一八三 |
| 計 | | 四 | | 五二 | | 五七 | | 三一八 |

第三 指導

一 講習講話、その他

講習講話、實地指導、其の他の爲、場員を出張せしめたるは農林技師三七回一〇〇日、農林技手一七回三八日、助手三回五日なり。

二 質疑應答

農業技術の各般に互り書面又は口頭を以て質疑せるものに對し懇切に應答せり。

三 參觀人

參觀人總數 九三〇名

四 種苗配付

本年配付せる種苗の種類及數量左の如し

| 種類 | 配付數量 | 種類 | 配付數量 |
|-----|---------------------------|-------|------------------------|
| 馬鈴薯 | 三、〇〇〇 <small>疋</small> ・〇 | 秋播ライ麥 | 九〇 <small>疋</small> ・〇 |

其の他、蔬菜苗を少量宛參觀人に配付せり。

五 見本園

試験に屬せざる各種作物、花卉、蔬菜並に果樹を用地内に栽培し、試験及調査上の參考に供すると共に參觀人に供覽せり。

瀬棚農事試作場

當場竝に北海道農事試験場本、支場に於て得たる試験成績を基礎とし、之を當地方に實地應用して當業者に範を示すべき事業、即ち當地方主要農作物に對する模範經營、模範作竝に其他農事に關する講習講話、實地指導等に力を注ぎ、尙、餘力を以て地方的特殊試験を施行せり。以上の外、北海道農事試験場瀬棚高丘地經營試驗農場に對する指導監督を行ひたり。其の概要左の如し

第一 模範經營

本經營農場は可及的自給自足の方針の下に、其の經營する泥炭地水田より得る植産收入を主體とし、畑地に於て一部自家食糧及家畜飼料を生産し、且、畜産收入及薬工品等の副業收入を擧げんことを組織の下に、水田二町九反、畑八反、蔬菜畑二反五畝、灌排水溝三反、牧草地其他七反五畝計五町歩を家族六人内從業者二・五人を以て經營せるに、本年の氣候極めて順調なりし爲良好なる成績を收め、地方當業者を裨益せるところ尠からざりき。

第二 模範作

當地方に於ける農作物中より主要なるものを選定し、一定輪作式の下に合理的栽培を行ひ、耕種法の範を示すと共に、其の收支と生産量との變遷を調査し、以て地方農業經營指導の資に供せり。而して本年は春季以來氣候適順なりしたため良

好なる成績を示し、地方農業經營の模範となり一般當業者を裨益せるところ大なりき。

第三 試験及調査

北海道農事試験場本、支場に於て得たる試験成績にして地方的應用上更に證明試験の必要を認めたるものに對し試験及調査を行ひたり。

本年施行せる試験及調査の概要左の如し

| 試験及調査の種類 | 田作 | | 畑作 | |
|-------------------|----|----|----|----|
| | 種類 | 数 | 種類 | 数 |
| 地方對栽培法に關する試験及調査 | 二 | 一四 | 一 | 一八 |
| 地方對土地管理法に關する試験及調査 | 二 | 二〇 | 七 | 三二 |
| 地方對病害蟲に關する試験及調査 | 一 | 四 | 一 | 一 |
| 計 | 五 | 三八 | 二五 | 九一 |

第四 指導

一 講習講話、其他

講習講話、實地指導、其他の爲、場員を出張せしめたるは農林技手一回八〇日、助手三回一五日なり。

二 質疑 應答

農業技術の各般に互り書面又は口頭を以て質疑せるものに對し懇切に應答せり。

三 參觀 人

參觀人總數 一、〇〇〇名

四 種 苗 配 付

本年配付せる種苗の種類及數量左の如し

| 種類 | 配付數量 | 種類 | 配付數量 | 種類 | 配付數量 |
|----|--------|-------|--------|------|--------|
| 大豆 | 二・一六〇石 | 小豆 | 一・二二〇石 | 馬鈴薯 | 〇・四四〇石 |
| 燕麥 | 六・三〇〇 | 裸麥 | 〇・七九〇 | 綠肥大豆 | 〇・〇二〇 |
| 水稻 | 〇・一五〇 | 春播ライ麥 | 〇・一八〇 | 蕎麥 | 〇・八〇〇 |

五 見 本 作

事業上の参考資料並に參觀者指導の資に供んが爲、試験に屬せざる普通作物、特用作物、蔬菜及花卉等を小地積に栽培し、參觀者に供覽せり。

日高農事試作場

當場に於ては、當場並に北海道農事試験場本、支場に於て得たる試験成績を基礎とし、之を當地方に實地應用して當業者に範を示すべき事業、即ち模範經營を行ひ、一方農事に關する講習講話、實地指導、種苗配付等に主力を注ぐと共に、當地方主要農作物に對する試験を行ひたるが、其の成績顯著にして地方農事の改善上裨益せるところ尠からざるを認めたり。其の概要左の如し

第一 模範經營

前年に繼續し、實際農家をして一定輪作式の下に合理的耕種肥培を行ひ實地經營に當らしめたるに、相當の成績を擧げ地方農家に之が範を示せり。

第二 試験及調査

北海道農事試験場本、支場に於て得たる試験成績にして、地方的應用上更に證明試験の必要を認めたるものに對し試験及調査を行へり。
本年施行せる試験及調査の概要左の如し

| 試驗及調査の種類 | 田 | | 作 | | 畑 | |
|--------------------------------------|----|----|----|----|----|-----|
| | 種類 | 數 | 種類 | 數 | 種類 | 數 |
| 地方對栽培法に關する試驗及調査 地方對土地管理法に關する試驗及調査 | 一 | 一 | 一 | 二 | 二 | 一 |
| | 三 | 三 | 四 | 四 | 二 | 二 |
| 計 | 一四 | 一四 | 五六 | 四四 | 二九 | 一六八 |

第三指 導

一 講習講話、其他

講習講話、實地指導、其他の爲、場員を出張せしめたるは農林技手一回四七日、助手一回三日なり。

二 質疑 應答

農業技術の各般に互り書面又は口頭を以て質疑せるものに對し懇切に應答せり。

三 參觀 人

參觀人總數

六三八名

四 種 苗 配 付

本年配付せる種苗の種類及數量左の如し

| 種 類 | 配 付 數 量 | 種 類 | 配 付 數 量 | 種 類 | 配 付 數 量 |
|-----|--------------------|-----|--------------------|-------|--------------------|
| 水 稻 | 四・四六八 ^石 | 大 豆 | 〇・〇一三 ^石 | 燕 麥 | 〇・〇二九 ^石 |
| 大 麥 | 〇・〇三三 | 小 豆 | 〇・一三五 | 玉 蜀 黍 | 〇・〇二九 |
| 小 麥 | 〇・四六九 | 裸 麥 | 〇・二二九 | 馬 鈴 薯 | 五〇六 |

五 見 本 作

事業上及來觀者の參考に供せんが爲、見本として試験に屬せざる各種作物を栽培し、地方農家の參考に供したり。

稚内農事試作場

當場に於ては、從來當場竝に北海道農事試験場本、支場に於て得たる試験成績を基礎とし、之を實地に應用して當業者に範を示すべき事業、即ち當地方主要農作物に對する模範作に力を注ぎたるに、その成績の見るべきもの尠からざりき。殊に模範作は一定の輪作式を定め、地方主要農作物の合理的栽培を行ひ、以て一般農家に耕種法の範を示すに共に、其の收支と生産量との變遷を調査し、農業經營の參考資料たらしめんことを期せり。其の他一般農事に關する講習講話、實地指導、種苗配付等地方農事の改善上裨益せるところ尠からざりき。其の概要左の如し

第一 模範作

當場に於ける本年の模範作（高丘傾斜地）は七箇年の長期輪作にして本年は二年目に當れり。而して本年融雪後の天候低溫不順なりしたため播種期は平年より遅れ且發芽當時乾燥に失したるも、特記すべき故障なく各種作物孰れも良好なる成績を示し、地方當業者に範を示すを得たり。

第二 試験及調査

北海道農事試験場本、支場に於て得たる試験成績にして、地方的應用上更に證明試験の必要を認めたるものに對し試験及調査を行へり。
本年施行せる試験及調査の概要左の如し

| 試験及調査の種類 | 種田 | | 作 | | 畑 | | 作 | |
|-------------------|----|---|---|----|----|----|---|-----|
| | 種類 | 数 | 区 | 数 | 種類 | 数 | 区 | 数 |
| 地方對栽培法に關する試験及調査 | | 七 | | 三七 | | 五一 | | 二〇一 |
| 地方對土地管理法に關する試験及調査 | | 一 | | 一 | | 一 | | 一〇 |
| 地方對病害蟲に關する試験及調査 | | 一 | | 一 | | 一 | | 三 |
| 計 | | 七 | | 三七 | | 五三 | | 二一四 |

第三指 導

一 講習講話、其他

講習講話、實地指導、其他の爲、場員を出張せしめたるは農林技手一七回四三日、助手一回二日なり。

二 質 疑 應 答

農業技術の各般に互り書面又は口頭を以て質疑せるものに對し懇切に應答せり。

三 參 觀 人

參觀人總數 四六七名

四 種 苗 配 付

本年配付せる種苗の種類及數量左の如し

| 種 類 | 配 付 數 量 | 種 類 | 配 付 數 量 | 種 類 | 配 付 數 量 |
|-------|-------------------|-----|------------------|-----|-------------------|
| 春播小麥 | 二二・七 ^担 | 裸麥 | 〇・六 ^担 | 碗豆 | 二六・二 ^担 |
| 秋播ライ麥 | 三九・三 | 燕麥 | 一〇・〇 | 馬鈴薯 | 二、八九三・八 |
| 燕麥 | 一七五・〇 | 菜豆 | 一〇・〇 | | |

美瑛農事試作場

當場に於ては、從來當場並に北海道農事試験場本、支場に於て得たる試験及調査の成績を綜合應用せる模範經營を行ひ、當業者に範を示すと共に、應用的試験及調査を施行せり。其の他一般農事に關する講習講話、質疑應答、種苗配付等地方農事の改善に努力せり。

第一 模範經營

當場に於ける模範經營は三年目にして、本年の氣候春季稍乾燥に失したるも、各種作物は一定輪作式の下に合理的栽培を行へる結果、其の作況良好にして、病害蟲の發生ありたるも防除の結果微害に止まり、又、輪作の効果顯著にして、地方農家を裨益せるところ大なりき。

第二 試験及調査

北海道農事試験場本、支場に於て得たる試験成績にして地方的應用上更に證明試験の必要を認めたるものに對し試験及調査を行へり。
本年施行せる試験及調査の概要左の如し

| 試験及調査の種類 | 畑 | | 作 |
|-------------------|----|---|-----|
| | 種 | 類 | |
| 地方對栽培法に關する試験及調査 | 三 | 一 | 三〇四 |
| 地方對土地管理法に關する試験及調査 | 五 | | 六〇 |
| 計 | 三六 | | 三六四 |

第三 指導

一 講習講話、其他

講習講話、實地指導、其他の爲、場員を出張せしめたるは農林技手一五回三六日、助手三回一〇日なり。

二 質疑應答

農業技術の各般に互り書面又は口頭を以て質疑せるものに對し懇切に應答せり。

三 參觀人

參觀人總數 四八九名

四 種苗配付

本年配付せる種苗の種類及數量左の如し

| 種類 | 配付數量 | 種類 | 配付數量 | 種類 | 配付數量 |
|----|-------------------|----|------------------|---------|-------------------|
| 燕麥 | 四〇・〇 ^町 | 菜豆 | 〇・五 ^町 | ライ麥 | 二六・〇 ^町 |
| 小麥 | 二六・九 | 豆 | 一三・〇 | 赤クローバー | 二・五 |
| 裸麥 | 九・五 | 薯 | 一・〇 | コンモンベッチ | 四・五 |
| 大豆 | 〇・六 | 蕎麥 | 一・〇 | | |
| 小豆 | 一五・一 | 粟 | 一・八 | | |

原種圃及採種圃

一 米原種圃

本事業は第六期原種配付計畫に基き水稻一七品種の原種を市町村農會に配付せんが爲之が生産を行ひたり。
其の種類及生産數量左の如し

| 種類別 | 品種數 | 栽培反別 | 生産數量 | 摘 | 要 |
|-----|-----|--------------------|----------------------|---|---|
| 水 稻 | 一七 | 二八・一六 ^反 | 一〇四・三九〇 ^石 | | |

二 小麥原種圃

本事業は小麥増殖計畫に基き秋播種四品種、春播種一品種の原種を農事實行組合に配付せんが爲之が生産を行ひたり。
其の種類及生産數量左の如し

| 種類別 | 品種數 | 栽培反別 | 生産數量 | 摘 | 要 |
|-----|-----|------|------|---|---|
| | | | | | |

| 種類 | 品種数 | 栽培反別 | 生産数量 | 摘 | 要 |
|-----|-----|--------|---------|---|---------------------|
| 秋播種 | 四 | 一〇八・〇〇 | 一一〇・四〇〇 | | 秋播小麦は昭和七年に播種せるものなり。 |
| 春播種 | 一 | 一〇〇・〇〇 | 九九・六一〇 | | |
| 計 | 五 | 二〇八・〇〇 | 二一〇・〇一〇 | | |

三 麥原種圃

本事業は第五期原種配付計畫に基き裸麥二品種、燕麥二品種、裸燕麥一品種の原種を市町村農會に配付せんが爲之が生産を行ひたり。

其の種類及生産數量左の如し

| 種類 | 品種数 | 栽培反別 | 生産数量 | 摘 | 要 |
|-----|-----|-------|--------|---|---|
| 裸燕麥 | 二 | 八・九〇 | 七・四〇〇 | | |
| 燕麥 | 二 | 八・〇三 | 二三・〇二五 | | |
| 計 | 五 | 一八・九三 | 三三・六二五 | | |

四 雜穀馬鈴薯原種圃

本事業は第五期原種配付計畫に基き大豆八品種、小豆四品種、豌豆一品種、馬鈴薯四品種の原種を市町村農會に配付せ

んが爲之が生産を行ひたり。
其の種類及生産數量左の如し

| 種類 | 品種数 | 栽培反別 | 生産数量 | 摘 | 要 |
|-----|-----|-------|-----------|---|---|
| 大豆 | 八 | 一九・四一 | 二二・三五七 | | |
| 小豆 | 四 | 五・六三 | 七・六四二 | | |
| 豌豆 | 一 | 一三・〇七 | 九・五二〇 | | |
| 馬鈴薯 | 四 | 八・五七 | 二、八八九・一四〇 | | |
| 計 | 一七 | 四六・六八 | 三九・五一九 | | |

五 菜種採種圃

本事業は第一期種子配付計畫に基き秋播種一品種、春播種一品種の種子を農事實行組合に配付せんが爲之が生産を行ひたり。
其の種類及生産數量左の如し

| 種類 | 品種数 | 栽培反別 | 生産数量 | 摘 | 要 |
|-----|-----|------|--------|---|---|
| 春播種 | 一 | 三・一 | 一・二八〇 | | |
| 秋播種 | 一 | 一九・〇 | 二六・五三三 | | |
| 計 | 二 | 二二・一 | 二七・八一三 | | |

六 綠肥採種圃

本事業は綠肥種子普及計畫に基きコンモンベツチ及赤クローバーの種子を生産し、コンモンベツチは市町村農會に赤クローバーは農事實行組合に配付せんが爲之が生産を行ひたり。
 其の種類及生産數量左の如し

| 種類別 | 品種數 | 栽培反別 | 生産數量 | 摘 | 要 |
|---------|-----|------------------|--------------------|-------------------------------------|---|
| コンモンベツチ | 一 | 六・〇 ^反 | 四・九七八 ^石 | 本事業は本年より開始せしものにして播種を行ひしが採種するに至らざりき。 | |
| 赤クローバー | 二 | 一・九 | 四・九七八 | | |
| 計 | | | | | |

採種圃監督

市町村農會採種圃の經營に對し指導監督を行はんが爲、場員を四回四四日に互り出張せしめ指導督勵を行はしめたり。

原蠶種製造

一一六

本事業は、前年に繼續し、其の目的は本道に於ける蠶種製造者に原蠶種を供給せんとするにあり。
本年に於て掃立てたる蠶品種は一化性支那種二品種、歐洲種二品種、歐歐固定種一品種、日歐固定種一品種、二化性日本種一品種にして、其の製造蛾數は五、二五一蛾にして、内三、六一二蛾を配付用に供せり。
尙、原蠶種製造に供せる餘剰を以て春蠶及夏秋蠶用普通蠶種二二五枚を製造し配付用に供せり。

模範果樹園 (渡島支場)

本事業の目的は果樹園經營上の範を實地に示すと共に其の收支を明にして本道果樹園藝の振興に資せんとするにあり
て、前年に繼續し、渡島支場用地内に於て苹果、和梨、櫻桃、葡萄等を栽培せる外、是等果樹の間隙を利用して蔬菜或は
小果樹の栽培を行ひたり。

一一七

農林省委託水稻新品種育成試験 (上川支場)

一一八

本試験は農林省指定試験にして、其の目的は高緯度又は寒冷地帯の如き稲作上氣候不充分なる地方に適す、早熟品種を育成せんとするにあり。
本年施行せる試験の概要左の如し

| 試 験 名 | 交 配 組 合 せ 数 | 系 統 又 は 個 體 数 |
|-------------------------------------|-------------|---------------|
| 交 配 操 作 | 三六 | 三八一 |
| 雜 種 第 一 代 養 成 | 二七 | 二九、一九四 |
| 低 温 栽 培 に よ る 雜 種 第 二 代 個 體 選 拔 試 験 | 二七 | 四二九 |
| 同 | 二一 | 六一八 |
| 同 | 六四 | 九一 |
| 同 | 三二 | 二七 |
| 同 | 一三 | |
| 新 品 種 決 定 試 験 | | |

農林省委託小麥育種地方試験 (本場及北見支場)

本試験は農林省委託試験にして、其の目的は耐病性、耐寒性、多收、品質良好なる優良品種を育成せんとするにあり。
本年施行せる試験の概要左の如し

イ 本 場 一 秋 播 小 麥

| 試 験 名 | 供 試 品 種 又 は 交 配 組 合 せ 数 | 栽 植 個 體 又 は 系 統 数 |
|-----------------------------|-------------------------|-------------------|
| 人 品 種 特 性 調 査 及 保 存 | 七六〇 | |
| 交 工 配 操 試 験 | 一二七 | |
| 交 配 操 作 | 二三 | |
| 雜 種 第 一 代 養 成 | 二一 | 二二九 |
| 雜 種 第 二 代 個 體 選 拔 試 験 | 一六 | 一六、〇三四 |
| 雜 種 第 三 代 系 統 及 個 體 選 拔 試 験 | 一一 | 一七二 |
| 雜 種 第 四 代 以 後 系 統 育 成 試 験 | 二九 | 二八四 |
| 未 固 定 系 統 生 産 力 檢 定 試 験 | 九 | |
| 新 品 種 決 定 試 験 | 一八 | |
| 配 付 系 統 採 種 栽 培 | 九六 | |

一一九

二春播小麥

| 試驗名 | 供試品種又は交配組合せ數 | 栽植個體又は系統數 |
|----------------|--------------|-----------|
| 品種特性調査及保存 | 一、二、四〇 | |
| 人工交配試驗 | 一二九 | |
| 交配操作 | 二三 | |
| 雜種第一代養成 | 一五 | 一一六 |
| 雜種第二代個體選拔試驗 | 二一 | 一五、〇八二 |
| 雜種第三代系統及個體選拔試驗 | 一六 | 二一五 |
| 雜種第四代以後系統育成試驗 | 二八 | 三一二 |
| 未固定系統生產力檢定試驗 | 一三 | |
| 新品種決定試驗 | 一三 | |
| 配付系統探種栽培 | 一、二、六 | |

口北見支場

一秋播小麥

| 試驗名 | 供試品種又は交配組合せ數 | 栽植個體又は系統數 |
|---------------|--------------|-----------|
| 人工交配試驗 | 一五 | |
| 雜種第四代以後系統育成試驗 | 六 | 三二 |

未固定系統生產力檢定試驗
新品種決定試驗

四五

一八五

二春播小麥

| 試驗名 | 供試品種又は交配組合せ數 | 栽植個體又は系統數 |
|----------------|--------------|-----------|
| 人工交配試驗 | 四八 | |
| 雜種第三代系統及個體選拔試驗 | 一六 | 一四七 |
| 雜種第四代以後系統育成試驗 | 一五 | 一九二 |
| 未固定系統生產力檢定試驗 | 一三 | 二五 |
| 新品種決定試驗 | 四 | 一三 |

昭和十一年二月十七日印刷
昭和十一年二月二十二日發行

北海道農事試驗場

札幌郡琴似村

札幌市南二條西六丁目三番地

印刷者 山藤代次郎

札幌市南二條西六丁目三番地

印刷所 山藤印刷株式會社

電話二六番

14.24
801



終